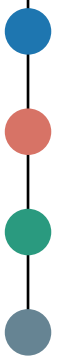


FPCO REPORT

エフピコレポート 2025



エフピコは食品トレー・容器の製造、販売、リサイクル事業を通じて、快適な食生活の創造に努めています。これからも、創業以来貫き続けてきた「現場主義」「顧客第一主義」を徹底し、「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」「どこよりも競争力のある価格で」「必要なときに確実にお届けする」という経営理念を実践してまいります。

社訓

1. 責任
2. 自信
3. 和
4. 忍（がまん）
5. 健康

経営理念

「現場主義」「顧客第一主義」に則り、
「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」
「どこよりも競争力のある価格で」
「必要なときに確実にお届けする」

エフピコグループが目指すもの

食品トレー・容器メーカーとして

持続可能な社会の構築
安心・安全で豊かな食生活の創造
「必要なときに確実にお届けする」インフラの確立

社会の一員として

経営基盤の強化
地域社会との共生



エフピコグループ
マスコットキャラクター
ピコザウルス



CONTENTS

社訓・経営理念・エフピコグループが目指すもの 1

イントロダクション

エフピコグループ代表メッセージ 3
エフピコグループの重要課題 10
事業内容／製造・販売製品 11
エフピコの価値創造プロセス 13

エフピコグループのバリューチェーン

価値創造システム 20
バリューチェーンによる価値創造とその成果 28

特集：価値創造の源泉

“エフピコらしさ”の原点 38
マンツーマンリーダー制度で受け継がれていく
“エフピコらしさ” 39
障がいの有無を超えて 41
社歌コンテスト 2025 大賞受賞！ 43

サステナビリティ

環境における取り組み

環境方針 49
TCFD 提言に基づく情報開示と推進体制 49
指標と目標 50
エフピコ・エコアクション 2.0 51
環境に関わる外部評価 52
エフピコ方式リサイクル 53
エフピコ環境基金 55

社会における取り組み

インクルージョンの推進 57
障がいのある人材のキャリア形成促進 58
社員のエンゲージメント向上 59
人材育成方針 61
コミュニティへの参画 62
健康経営 63

ガバナンスにおける取り組み

基本的な考え方 65
ガバナンス体制 65
コンプライアンス 66
リスクマネジメント 66
株主との関わり 66

企業プロフィール

グループ会社・拠点一覧 68
人材データサマリー 69
財務サマリー（連結） 70
環境データサマリー 71
イニシアチブへの参画・社会的な評価等 73
エフピコのあゆみ 75

<編集方針>

エフピコらしさを皆様にご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載することを心がけました。

本レポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン（2018年）」、国際統合報告フレームワーク（IIRCフレームワーク）、および「価値協創ガイダンス 2.0」を参考にしました。

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

エフピコレポート 2025 発行日：2025年6月

“エフピコらしさ”をつらぬき、 すべてのステークホルダーにとって “いい会社”でありたい。

代表取締役会長
兼 エフピコグループ代表

佐藤 亨正

今年度エフピコでは「ワイガヤ会議」というプログラムを始めました。私を含む経営陣と社員がカジュアルな雰囲気なのか、忌憚のない質問や意見を出し合うというものです。

その成果のひとつとして、社員の声を受けて育児時短勤務の対象期間を「小学校6年生の年度末まで」に延長しました。子育てと仕事の両立をより柔軟にサポートできるようになり、社内の空気も少し変わってきたと感じています。

こうした取り組みの根底にあるのはエフピコに存在する“いい会社”という合言葉です。働きやすい環境の会社、働き甲斐のある会社、お客様に愛される会社、社会にとって必要な会社など、社員一人ひとりにとって“いい会社”の定義は異なります。しかしその定義は違っても、“いい会社”にしたいという思いは一緒です。例えばお客様から、「エフピコさんらしい製品だね」というお褒めの言葉をいただいた時、私たちは“いい会社”にまた一歩近づいたと感じるのです。その一言は私たちにとって働き甲斐であり、働きやすい職場をつくった成果でもあるからです。

“エフピコらしさ”の先に“いい会社”があり、“いい会社”の先にすべてのステークホルダーに提供する社会的価値の創造があります。本年度のレポートでエフピコの価値創造プロセスをご覧いただきながら、“いい会社”を感じ取っていただければ幸いです。

社会のニーズに応えるための、
時流に沿った製品価値の拡大

エフピコは、食品容器を通じて豊かな食生活の創造に寄与する企業です。創業以来63年にわたり、時代の変化に応じた新しいアイデアを形にしながら、社会に求められる価値を提供することで企業としての使命を果たしてきました。経営理念である「現場主義」「顧客第一主義」を貫き、新たなニーズに応える製品開発に取り組んでいます。

近年、あらゆる業種で課題となっている人手不足の解消に繋がる食品容器の開発はその一例です。店舗のバックヤードで人の手によって行われている商品づくりの効率を上げるために、自動化・機械化を要望する企業が増えています。容器供給、盛り付け、蓋閉め・トップシール、ラベル貼り、コンテナ収納といったプロセスを担う機械のメーカーは様々です。どの工程の機械とも相性の良い容器を生み出すために、エフピコは各機械メーカー様と情報交換をしながら製品開発を進め、省人化・効率化を求める現場の声に応えています。

現場からの視点で得た
アイデアにより生まれる
製品は具現化された
“エフピコらしさ”

さらに別の視点から人手不足対策に貢献する製品もあります。ツマを別売りにすることを前提としてデザインした刺身容器は、2023年から出荷数が大幅に伸びてきました。盛り付け時間の短縮により、人手不足問題の改善に役立つことはもちろん、人件費やツマ代、さらには食品ロスの削減にもつながる多機能な製品です。

現場からの視点で得たアイデアにより生まれた製品は、「現場主義」「顧客第一主義」を掲げるエフピコの具現化された“エフピコらしさ”のひとつです。

素材使用量を大きく削減した、より環境に優しい容器の開発

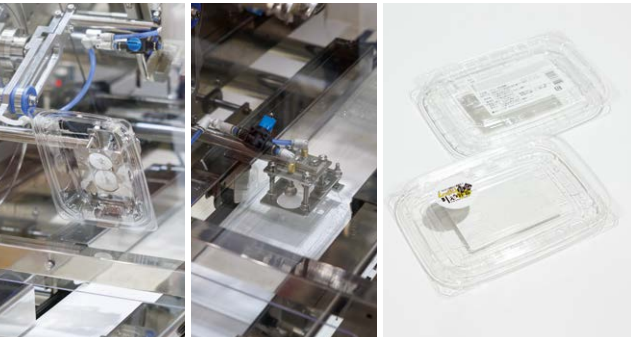
地球環境保全を見据えた施策のひとつに、食品容器の素材であるプラスチック使用量の削減があります。これは、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなど容器包装リサイクル法の対象となるお客様にとっても、重要な関心事となっています。エフピコでは素材の減量に向けた工夫を長年にわたり続けてきましたが、従来の非発泡性容器（HIPS）と比べてプラスチック使用量を最大約60%削減できる「新低発泡PSP容器」のシリーズ展開



自動容器供給機や自動飯盛り機に適応する多種多様な
サイズと形状の容器を随時開発し省人化に対応



自動蓋閉め機でもカチッとしたかん合が可能。
自動ラベル貼り機にも対応する容器



新低発泡PSP容器の開発に携わったプロジェクトメンバー

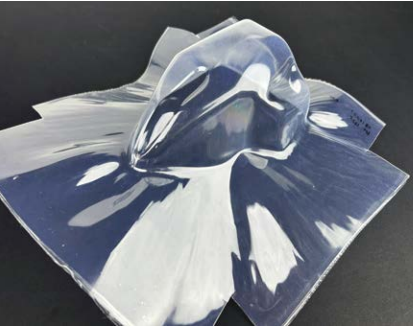
も進行中です。環境負荷を格段に減らしたうえでその機能を損ねない容器は高い評価を得ており、HIPSからの切り替えが着々と行われています。とくに2023年に上市した寿司容器「祝賀桶PT」「氷河桶PT」の出荷数伸長は著しく、2024年4月から9月にかけて前年同期比で163.5%という実績を残しました。

一方で発泡することのできない透明容器の場合、軽くするためにはシートを薄くするしか方法がありません。強度を維持したまま薄くし、さらに自動蓋締め機にも対応させるためには非常に高度な技術が必要となります。エフピコでは、こうした透明な惣菜容器などにおいてプラスチック使用量を平均約10.3%削減する軽量化に成功しました。薄い素材でも強度を確保するための工夫を施したデザイン設計により実現しています。この技術革新をもとに、大規模な金型への投資を行い2025年春までに88の金型をつくり替え、惣菜容器232アイテムを全面刷新していきます。

また、小売だけでなく介護や医療の現場でも需要の高まっている冷凍食品市場では、耐寒性に優れた新素材「耐寒PPiP-タルク®」が注目を集めています。2種類の無機物を均一に分散配合することで、従来品の耐寒PPと比較して機能が変わらず、同等の重量でプラスチック使用量を25%削減することができます。この最新技術を使った製品は、2025年から大手食品メーカーや冷凍食品メーカーで使用され始める予定です。



祝賀桶、氷河桶に続き次々と新低発泡PSPへの切り替えが進行中



賦形性と透明性を有し、
加飾も可能となる開
発中の超高剛性2軸延
伸ポリプロピレンシート
(新OPP)

容器開発から生み出された、
大きな可能性を持つ新素材

2軸延伸ポリエチレンテレフタレート（OPET）という素材のシートを自社生産したうえで成形、販売しているのは世界でエフピコだけです。この延伸技術を活かし、画期的な新素材「超高剛性2軸延伸ポリプロピレンシート（新OPP）」の開発も着々と進めています。このシートは賦形性と透明性を有し、加飾も可能です。さらに高剛性、高靱性、耐寒性、耐薬品性を持つほか、ポリプロピレン単体であるためリサイクル性にも優れています。容器の素材として先進的な「新OPP」は、積層すると驚異的な強度となります。アルミと同程度に膨張率が低く、低比重でもあるため、住宅設備や自動車部品などの産業分野でも使用が可能であり、これらの分野における軽量化やプラスチック使用量削減にも貢献できる素材です。食品容器の製品開発から派生した素材ですが、食品業界の枠から飛び出し、未解決の課題に応える可能性を秘めたエフピコ発のイノベーションとなります。



食品容器が使われる店舗を発着点とした「ストア to ストア®」リサイクルの拡大

高付加価値を持つ製品を開発し続けるためにも、持続可能でエコロジカルな活動は企業にとって不可欠です。エフピコは1990年に「エフピコ方式リサイクル」をスタートしました。開始当初は発泡トレーのみを対象としていましたが、現在ではスーパーマーケットなどに設置した回収ボックスで集めた使



株式会社アークス様との共同記者会見（2025年2月）

用済みの発泡トレー・透明容器・ペットボトルを原料に戻し、食品容器に再生しています。この循環型リサイクルを「トレー to トレー」「ボトル to 透明容器」と呼んでいます。

「エフピコ方式リサイクル」の特徴は消費者の方々、スーパーマーケットなどのお客様、包材問屋様、そしてエフピコの4者が一体となって製品リサイクルの輪を完成させていることです。4者それぞれの役割が合わさり初めて実現できるリサイクル事業を35年にわたり発展させてきましたが、近年では回収量の伸び悩みが課題のひとつとなっています。そこで現在エフピコでは、お店で使用・販売された食品トレー・ペットボトルをそのお店で資源として回収したのち、再生した食品トレー・透明容器を同じお店で積極的にご使用いただくという「ストア to ストア」の水平リサイクルの提唱を積極的に推進しています。食品の販売店舗を発着点とすることで、消費者の方々がりサイクルの輪をより身近に実感できる取り組みです。2022年から始まったエフピコとスーパーマーケット様各社との「ストア to ストア」の協働宣言は大きな広がりを見せています。

リサイクルされた製品を使用することにより、バージン原料からつくられるトレー・容器と比較して発泡製品のエコトレーは約37%、透明容器のエコAPET・エコOPET製品は約30%のCO₂削減効果が認められています。今後もさらなるリサイクル資源回収とエコ製品使用を推し進めるとともに、消費者の方々により積極的な参加を促すために売り場と連動した取り



2023年1月に稼働を開始した生産工場と物流拠点の複合施設関西工場・関西ハブセンター

組みを続け、全国各地のお客様と力を合わせて資源の有効活用を目指していきます。

物流問題にも対応した
全国ネットワークによる安定供給

日々の食生活と密接に関わる食品容器メーカーとして、製品の安定供給は私たちの重要な責務と認識し、4年間ほぼ欠品ゼロを続けています。

物流においては、法改正による「物流2024年問題」で特に重要なのがドライバー1人あたりの拘束時間を1日13時間以下に制限する規定です。2023年1月に稼働開始した、関西の大型商圏に対応する関西工場・ハブセンターが機能し始めたことで全国の配送センターから半径100kmの範囲で日本の総人口の85%をカバーするネットワークが構築され、従来13時間以上かかっていた34コースの配送の問題がすべて解消されました。

同時に、中部を境に東西分割した極めて効率的な物流網が完成されたことにより製品などの横持ち輸送を最大限に抑え、2025年3月期は関東・福山間の長距離輸送は前年比で53.5%削減できました。

またドライバーの荷待ちや待機時間を削減する目的で、ソーターや独自に開発したオリジナルサイズの輸送パレットの導入を

進めています。これらの施策によって、積み込みに2時間以上かかるトラックの台数が230台から24台へと大幅に減少しました。

こうした取り組みに加え、需要に応じた現地生産を推進することで、エフピコは時代の変化に柔軟に適応しつつ安定した供給体制を確立しています。

成長の持続を見据えた多様な中長期戦略

2025年3月期の経常利益は184億円を達成することができました。エフピコの中長期成長目標は、2030年3月期までに売上高3,000億円、経常利益300億円の達成です。また株主還元については、2024年3月期より配当性向の目処を30%から40%に引き上げており、継続的かつ安定的に配当を実施する観点から、原則として減配しない累進配当*を実施することといたしました。

これらの目標を達成するための具体的な施策として、以下の取り組みを進めています。第一に、オリジナル製品のさらなる強化です。エコ製品販売の伸長に加え、冷凍食品、介護食・病院食などの新たなマーケット獲得にも努めています。さらに前述した先進的な素材「新OPP」の新工場が2027年に完成予定です。「新OPP」に関しては、食品関連以外の新たな事業領域への進出も期待されています。

第二に、海外事業の本格始動も強みです。三井物産株式会

*累進配当：原則として減配せず、配当の維持もしくは増配を行う配当政策



三井物産様と合併で取得したマレーシアのLSSPI社

社様と合併でマレーシアのLSSPI社を買収して2年が経ち、発注していた成形機、押出機などの設備がようやく工場に入り始めました。来年には3カ年計画の「2倍の生産性へ」というステップを達成できる見込みで、東南アジアでの展望が広がります。

第三に、国内における販売拡大に向けては、グループインフラの効率的な活用を促進して問屋連携を深めています。

また企業の責務として成長と同時に取り組まなければならないのが、持続可能性を高めるための環境対策です。DIC株

式会社様と共同で進めてきたポリスチレンの完全循環型リサイクルの取り組みの一環として、同社が開発した色柄付き発泡トレーの溶解分離リサイクル施設の稼働が開始されました。これにより、エコトレーの販売が約30%増加できる見込みです。並行してケミカルリサイクルの開発も進め、完全循環型リサイクルの実現に取り組んでまいります。

“エフピコらしく” 取り組む、社会的価値の創造

エフピコは、お客様そして社会に有用な価値を持つ食品容器を通じて、豊かな食生活の創造に貢献し続けることで、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。

社会的な価値を創造することこそが企業の使命です。すべてのステークホルダーにとって“いい会社”であることで、企業の社会的価値はさらに高まります。時代が移り変わる中で、新たな課題が常に生まれることでしょう。しかし、どの時代においても“エフピコらしさ”をつらぬき、“いい会社”であり続けることを念頭に置きながら課題の解決に臨みます。

2025年のテーマは「気魄」。何ものにも屈せず立ち向かっていく強い精神力を表す言葉です。昨年は「前進」をテーマに、国際社会や自然環境が不安定な状況下でもお客様の収益と価値向上に努めるとともに、企業としての成長を加速させました。2025年は、全社員が一丸となり「気魄」を持って生産性を高め、業績のさらなる伸長を目指してまいります。



DIC 四日市工場に建設された、溶解分離リサイクル技術で色付きペレット（トレー素材）の脱墨を行うための施設



エフピコグループの重要課題

エフピコグループではビジネスモデルの持続可能性にとって重要なリスク及び機会の観点から、重要課題（マテリアリティ）を定めて、様々な取り組みを行っています。マテリアリティは環境戦略・TCFD推進管理委員会にて作成し、取締役会の承認を経て決定しています。

目指す姿	エフピコグループの重要課題（マテリアリティ）	取り組み	関連するSDGs
持続可能な社会の構築	◎ CO ₂ 排出削減	○ 太陽光発電設備の導入 ○ 再生原料を使用したエコ製品の拡大	7 再生可能エネルギーを十分に活用すること 12 つくもの責任 13 気候変動に具体的な対策を
	◎ プラスチックごみ問題の解決	○ リサイクルボックスによる使用済み製品の回収 ○ 「エフピコ環境基金」を通じた活動	14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう
安心・安全で豊かな食生活の創造	◎ 新たな価値を提供する製品開発	○ 価値創造提案 ○ 新素材の研究開発 ○ 製品のプラスチック使用量削減 ○ 食品ロスの削減	9 産業・技術革新の基盤をつくろう 12 つくもの責任
「必要ときに確実にお届けする」インフラの確立	◎ 製商品の安定供給	○ サプライチェーン・マネジメント（SCM） ○ 全国各地の生産・物流ネットワーク構築 ○ 災害対策（非常用自家発電設備と燃料備蓄、防波堤設置）	8 働きがいも経済成長も
経営基盤の強化	◎ 社員のエンゲージメント向上 ◎ インクルージョンの推進 ◎ コーポレートガバナンス	○ ディーセントワーク（健康・安全で働きがいのある仕事）の推進 ○ 障がい者雇用などダイバーシティ経営 ○ 人材マネジメント（人事制度、各種研修プログラムの充実） ○ 業務全般におけるDX推進	5 ジェンダーの平等を促進しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と公正をすべての人に
地域社会との共生	◎ コミュニティへの参画	○ リサイクル工場見学や出前授業の実施 ○ 「エフピコ環境基金」を通じた地域社会と一体で進める環境活動 ○ 子ども食堂への容器寄贈	17 パートナリシップで目標を達成しよう

事業等のリスク

当社グループの経営成績 財政状態及び株価等に影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

1. 原料価格について 2. 自然災害・事故・感染症の発生について 3. 人材確保について 4. 気候変動について

将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであり、また当社グループに関する全てのリスクを網羅したものではありません。

詳細はウェブサイトをご参照ください: https://www.fpco.jp/ir/report/report_securities.html



エフピコグループは、食品トレー・容器を製造、販売、リサイクルし、自社物流ネットワークを活かして、もっとも高品質で環境に配慮した製品を 必要ときに全国へ確実にお届けできる仕組みを構築しています。



製品開発・製造事業

全国各地の消費地を網羅する 生産供給体制の整備

お客様のニーズを製品開発に反映するとともに、拡大する市場に対応して食品トレー・容器を安定供給できるよう、全国に21の生産工場を配置しています。SCM（サプライチェーン・マネジメントシステム）により、販売部門の需要予測をもとに生産計画を立案し、資材の調達、製品の供給・在庫管理を一元的に行っています。



リサイクル事業

循環型リサイクルによる 使用済み食品トレーなどの再生

スーパーマーケット様の店舗などで回収された使用済み食品トレー・透明容器・ペットボトルを、製商品配送後に空になった帰り便を活用し、全国の選別センターへ運びます。これらの使用済み食品トレー等は、リサイクル工場で原料に戻し、再び食品トレー・透明容器に生まれ変わります。このような「トレーtoトレー」「ボトルto透明容器」のリサイクルを推進しています。

汎用



エコトレー（リサイクル製品）

サイズと色柄で様々な用途に活用が可能

寿司



新鮮さを損ねず美味しさを食卓まで運ぶ

精肉



衛生的で肉の旨味や色味を引き立てる

クリアパッケージ



透明な容器が鮮度も美味しさも伝える

フードパック



衛生的で便利な機能を付加

冷凍



容器や三方袋で様々な冷凍食品に対応

鮮魚



新鮮な海の幸の魅力を引き立てる

米飯



サイズと色柄で様々な用途に活用が可能

惣菜



電子レンジ対応などで扱いやすい

催事



人が集まる楽しい催事に最適

デリバリー



様々なメニューの配達に適した容器類

その他



紙容器、鶏卵パック、フィルム製品など



倉庫・物流事業

全国を効率的にカバーする 物流ネットワーク

約12,000種類の製品を安定してお届けするため、全国に9カ所ある物流拠点から半径100キロメートル圏内で日本の全人口の約85%をカバーする全国規模の物流ネットワークを構築しています。また、自社製品と一緒にスーパーマーケット様等で必要な包装資材・消耗品や衛生・作業用品などもお届けしています。



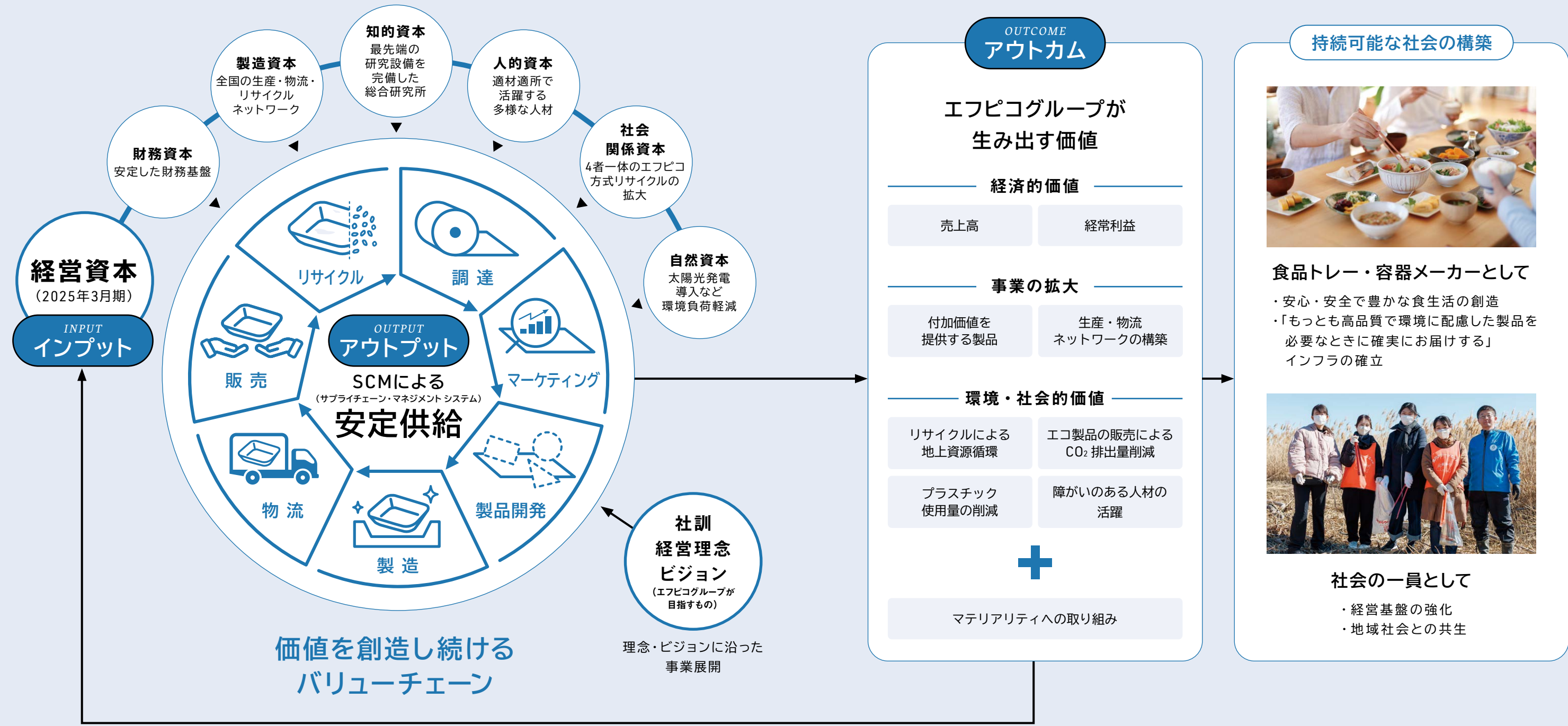
販売事業

お客様の現場を起点に ニーズを把握した提案

食品販売の現場を重要視し、そこからお客様のニーズを見つけ、それに応える製品をつくる「現場主義」により年間約1,500もの新製品の提案が可能となっています。さらにお客様目線で見た売り場づくりのアイデアなどもご提案し「顧客第一主義」の理念を実践しています。

エフピコの 価値創造プロセス

様々な価値創造を続けるエフピコグループは、独自のバリューチェーンにより
食品トレー・容器の製造、販売、リサイクルを行っています。
豊かな食文化と持続可能な社会の構築に貢献し、さらなる価値創造を実践しています。



INPUT
インプット

価値創造のための6つの経営資本（2025年3月期）

資産合計 2,985億円（2024年3月期） ↓ 2,922億円	財務資本 安定した収益基盤と健全な財務体質を通じ、持続的な成長と投資を支えています。	自己資本比率 48.6%（2024年3月期） ↓ 52.5%
設備投資額 95.9億円（2024年3月期） ↓ 161.1億円	製造資本 最新の設備や技術を導入し、高品質な製品の生産と供給体制の強化を図っています。	生産工場 21工場（2024年3月期） ↓ 21工場
研究開発費 14.8億円（2024年3月期） ↓ 15.4億円	知的資本 独自の製品開発力やリサイクル技術を始めとした革新的なソリューションを生むための研究開発を行っています。	意匠登録件数 126件（2024年3月期） ↓ 187件
連結従業員数 5,104名（2024年3月期） ↓ 5,250名	人的資本 社員の専門性向上や働きやすい環境づくりに注力し、組織の活力を高めています。	障がい者雇用率 12.6%（2024年3月期） ↓ 12.6%
使用済み容器回収拠点数 10,680カ所（2024年3月期） ↓ 11,000カ所	社会関係資本 消費者や顧客等を含めた、地域社会との信頼関係を築いています。	プラスチック資源回収量 10,500t（2024年3月期） ↓ 11,000t
CO₂排出量 約18.7万t（2024年3月期） ↓ 約17.5万t	自然資本 リサイクル事業、エコ製品の開発・製造・販売、太陽光発電等による環境負荷の低減を行っています。	エコ製品販売によるCO₂削減量 約20.2万t（2024年3月期） ↓ 約20.9万t

OUTCOME
アウトカム

エフピコグループが生み出す価値（2025年3月期）

売上高
2,221億円（2024年3月期）
↓
成果 2,356億円

経済的価値
効率的な生産・物流体制と
環境配慮型製品の提供で、
競争力と安定した収益を実現。

経常利益
167億円（2024年3月期）
↓
成果 184億円

事業の拡大

①付加価値を提供する製品の開発

オリジナル素材：8種類
オリジナル素材の出荷枚数ベース：68%

②生産・物流ネットワークの構築

配送センターから100キロ圏内において
日本の人口の約85%をカバー

③M&Aによる九州地区の販売力強化を含む
グループインフラの活用

④冷凍、病院・介護給食等新マーケットの開拓

⑤新素材による新たな事業領域への進出

⑥マレーシアを拠点とした海外市場の拡大

環境・社会的価値

リサイクルによる地上資源循環

溶解分離リサイクル技術によるエコトレー販売
増加率（前年度比）：約30%増加（見込み）

エコトレー販売によるCO₂排出量削減率：37%
（2024年7月出荷分～）

プラスチック使用量の削減率：約60%
（祝賀桶、氷河桶）

障がいのある人材の活躍
障がいのある社員数：401名
障がい者雇用率：12.6%

関西選別センター竣工

新たな拠点による資源循環型リサイクルの発展

2024年11月、兵庫県小野市に「関西選別センター」が竣工しました。この施設は、使用済みの発泡トレー（PSP）や透明容器を選別し、リサイクル工程へとつなげる役割を担います。月間処理能力はPSPが60トン、透明容器が40トンです。同センターは、2023年1月稼働の「関西工場・ハブセンター」に隣接し、地域で回収された使用済み製品の効率的なリサイクルを推進する、プラスチック資源の持続可能な循環型リサイクルの新たな拠点です。





エフピコグループの バリューチェーン

エフピコが培ってきた「団結力」と、
持続可能な社会を目指す独自の「バリューチェーン」。
その両方を生み出しているのは、社員同士の結束と挑戦する精神です。

代表取締役社長

安田 和之

人の和が原動力。
エフピコに受け継がれる「団結力」

私は47年間、エフピコと共に歩んできました。最初にも
のづくりの現場に立ったとき、その厳しさと同時に、社員
同士の結びつきから生まれる温かさを感じたことをよく覚
えています。エフピコは単にモノを造って売だけの会社
ではないと思いました。技術や設備を駆使して事業を行っ
ているだけでなく、人の和が生み出すエネルギーが原動力
になって会社を動かしていることを感じたものです。

この企業風土を生み出したのは、創業者である故小松安
弘のエネルギーで常に前向きな経営スタイルです。報告
するときは「まず悪いことから言いなさい」と言われたも
のでした。みんなで問題に取り組み、克服する。それがエ
フピコ流のやり方です。食品トレーをリサイクルするなんて
不可能だと思われていた時代に始めたリサイクル事業はそ
の典型的な例です。消費者の方々、スーパーマーケットな
どのお客様、包材問屋様、そしてエフピコの4者の力を合わ
せた「エフピコ方式リサイクル」は、エフピコという枠を超え
た団結力の象徴であると言えるでしょう。事業と会社組織

の核として存在する社内の一体感は、まぎれもない“エフ
ピコらしさ”として脈々と受け継がれています。

サプライチェーン・マネジメントシステムと
団結力が回すエフピコ独自の「バリューチェーン」

エフピコは食品トレー・容器の開発、製造、販売、配送、そ
してリサイクルを行っている会社です。一連の事業内容の最
大の特徴は、利益を上げるための活動とESGに向けた価値
創造活動が表裏一体で行われていることです。ひと言で表
現するならば、「業績を上げることは環境を守ること」。こ
のエフピコ独自の事業構造の中核には、エフピコグループが
一丸となって回している循環型のバリューチェーンとその司
令塔であるサプライチェーン・マネジメントシステム（SCM）の
存在があります。以降のページでエフピコのバリューチェー
ンから生み出される価値創造のプロセスとその成果を説明
していますので、ぜひご覧ください。

さきほども申し上げました通り、エフピコには人の和とい
う原動力があります。循環型のバリューチェーンを回す上で、
この一体感は重要な役割を果たしています。

“部門の和が生み出す
エネルギーを
サプライチェーン・
マネジメントシステムが
効率的にコントロール。
それがエフピコらしい
事業スタイルです”





事業の司令塔となるSCM本部は、営業スタッフが提出する需要予測、物流部門から出る走行距離データ、リサイクルされた素材の生産量など、運営に関わるほぼすべての情報を集約し、各部門へと指令を伝達しています。しかし、SCM本部による一極集中型の情報集約だけでは業務の完全な効率化は実現できません。バリューチェーンの7つの工程に携わる各部門は、部門の垣根を越えて常に情報交換やアイデアの提供を行い協力し合っているのです。

例えば、物流部門が輸送の効率化の向上を目指す際は、他の部門も一丸となってその課題に取り組みます。調達部門では段ボールケースのサイズの微調整、製品開発部門では製品のスタック数を増やす形状の工夫など、ひとつでも多くの製品やケースを積載できるよう皆で考えます。こうして解決された課題の情報やデータはSCM部へとフィードバックされ、バリューチェーンは随時進化していきます。

2025年3月期の具体例では、調達部門を中心に実用化した溶解分離リサイクルの技術によりエコトレーの増産が可能となり、70,000ケースの出荷増を見込んでいます。また、CO₂の削減においても部門間の連携により、事業活動による排出量を削減量が上回るという成果を上げることができました。これらの成果も後述ページでご確認ください。

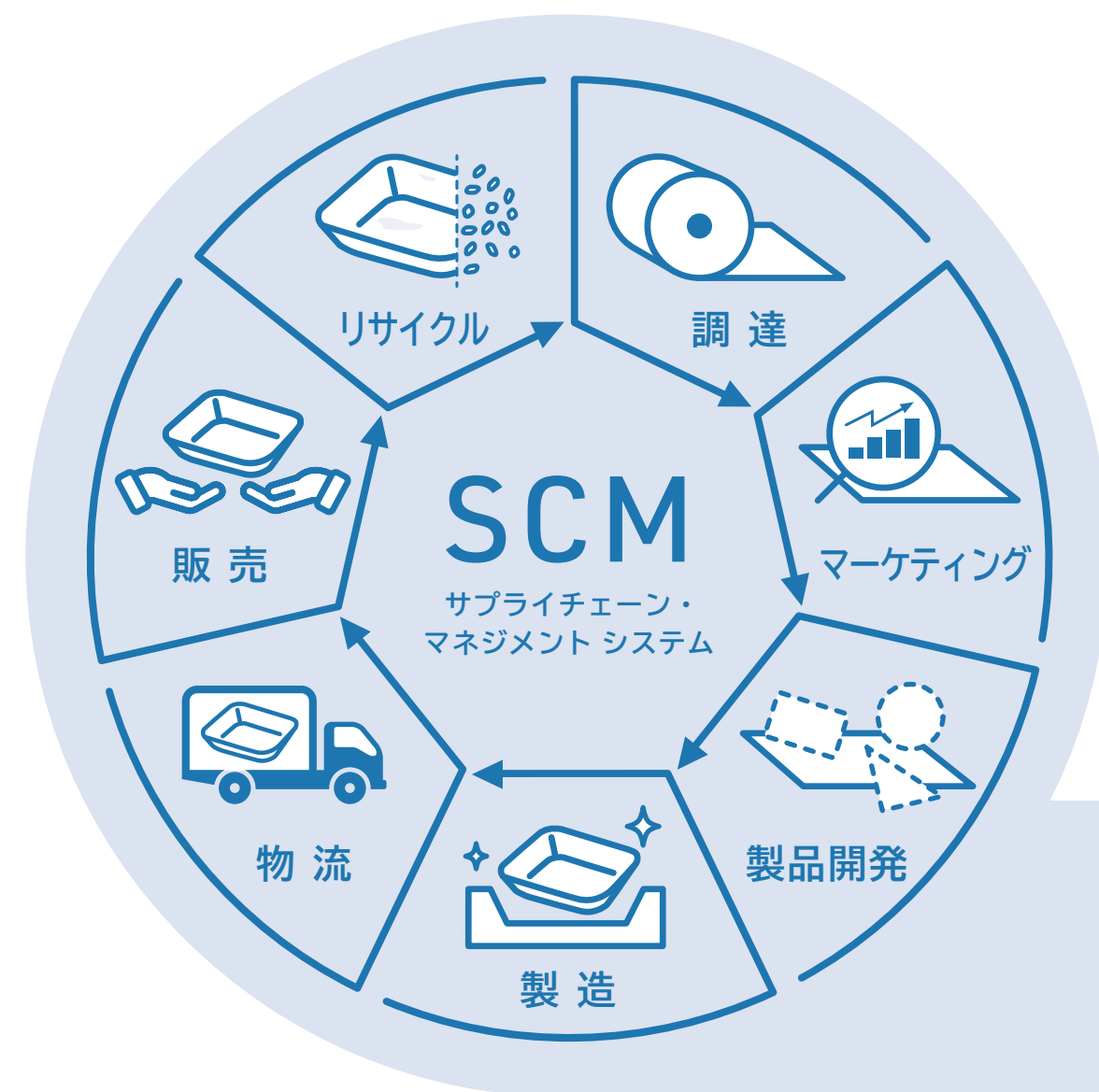
各部門と一対一で繋がっているSCMに加え、部門同士の横の連携と協力があるからこそ、エフピコのバリューチェーンは様々な課題解決や目標達成を実現しているのです。

挑戦の先にある成長と、 進化し続ける“いい会社”

事業を回すバリューチェーンの原動力として重要な一体感、本レポートの様々なパートで取り上げている“いい会社”の要素のひとつでしょう。エフピコには“いい会社”という言葉があり、各自がそれについて考え、実現しようという試みをしています。私自身もそのことについて考えてみたとき、“いい会社”とは社員のことを第一に考える会社だと思いました。社員の成長なくして会社の成長はあり得ません。

人材育成の面では、グループ会社をまたいだジョブ・ローテーションなどを計画しています。また働きやすい職場環境づくりも人の成長を促すという考えから、2026年3月期以降、製造部門では年間休日を現在の116日から120日に引き上げる予定です。この4日というのは製品の生産性に換算すると約1.5%にあたります。そこでこの1.5%分を補うための設備やシステムの投資などを計画しています。

さらに思うのは、困難を乗り越えたとき、人は最も成長するということです。もしも今困難に直面していないのであれば、新たなチャレンジや冒険をすべきであると自分にも言い聞かせています。決して現状に満足することなく、失敗を恐れずにチャレンジする。そして共に協力し合い目標を達成することで、ひと回り大きな強い団結力を手に入れることができるでしょう。そのような在り方が“エフピコらしさ”であり、“いい会社”への道だと信じています。



—価値をつなぎ未来を創る— 価値創造システム

ものづくりの司令塔であるSCM（サプライチェーン・マネジメントシステム）。調達からマーケティング、製品開発、製造、物流、販売、リサイクルまでを一貫して統括し、社会のニーズに応じた価値創造を支えています。

この循環が生み出すのは、ただの効率化ではなく価値あるつながり。必要なものを、必要なときに、最適な形で安定供給することで、環境負荷の低減にも貢献します。

エフピコのSCMが紡ぐ未来、その役割と価値創造の成果をご覧ください。

SCM 各部門の役割	21-27
バリューチェーンによる価値創造とその成果	28-36

安全でコンプライアンスを遵守した 素材を安定的に調達

キーポイント

素材の安定確保

どのような状況においても
対応可能な
調達網の構築

CSR 調達

すべての製品製造における
社会的信用の保持

環境負荷の低減

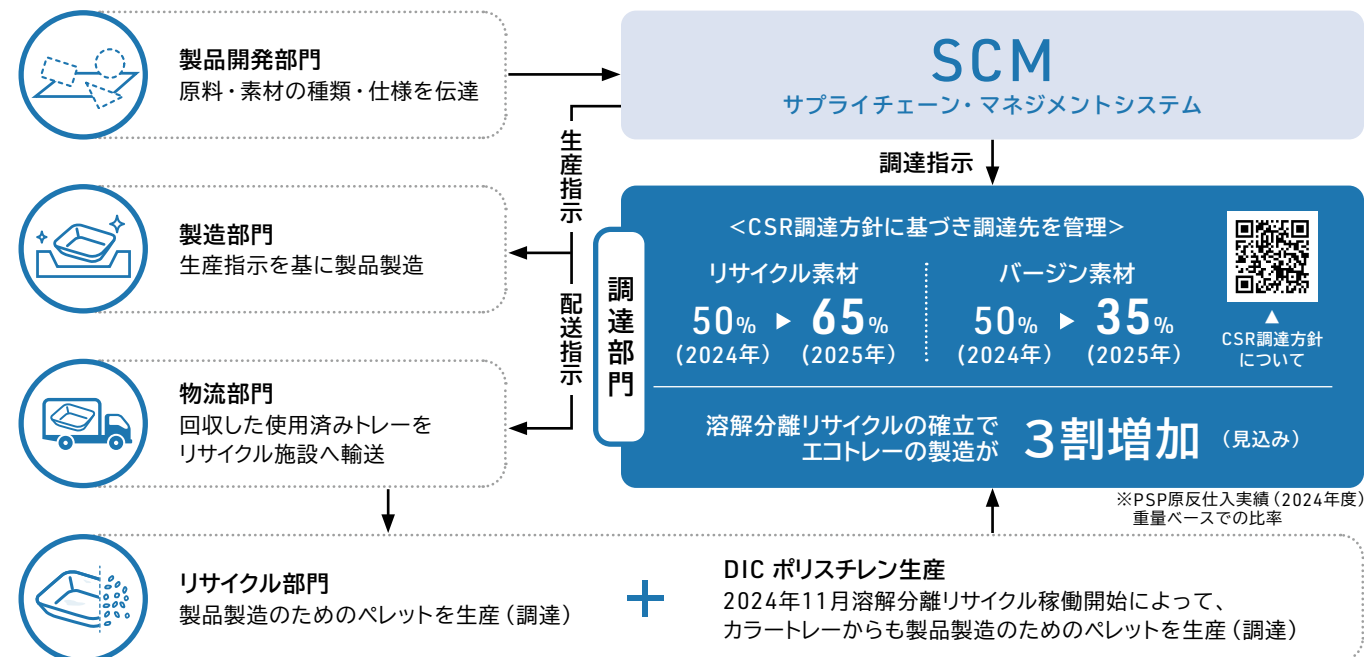
軽量化素材の開発・
調達と自社リサイクル
素材の積極的な活用

SCMからの調達指示を受け、製品の素材を手配することが調達部門の役割です。製品を「必要なときに確実にお届けします」という経営理念実現のため、供給リスクの軽減に取り組み、それを実践しています。平時はもちろんのこと、いつどのようなトラブルが発生しても素材をスムーズに製造部門へ供給できるように、原料、シート、副資材含め約300社と契約し、国内外に複数の調達網を構築しています。さらに「もっとも高品質で環境に配慮した製品」製造のため、バージン素材とリサイクル素材はそれぞれ品質や環境への影響を熟考して選定。前者はコンプライアンスを遵守した調達業務を明文化している「CSR調達方針」に基づいて調達するとともに、リサイクル素材の使用比率を引き上げて環境負荷の低減に貢献することも調達部門の大きな使命です。



調達

■ サプライチェーン・マネジメントシステムにおける調達の役割



現場での情報収集と分析から得た インサイトでニーズを発掘

キーポイント

ニーズの抽出

地道な人の努力とAIを
駆使した情報分析

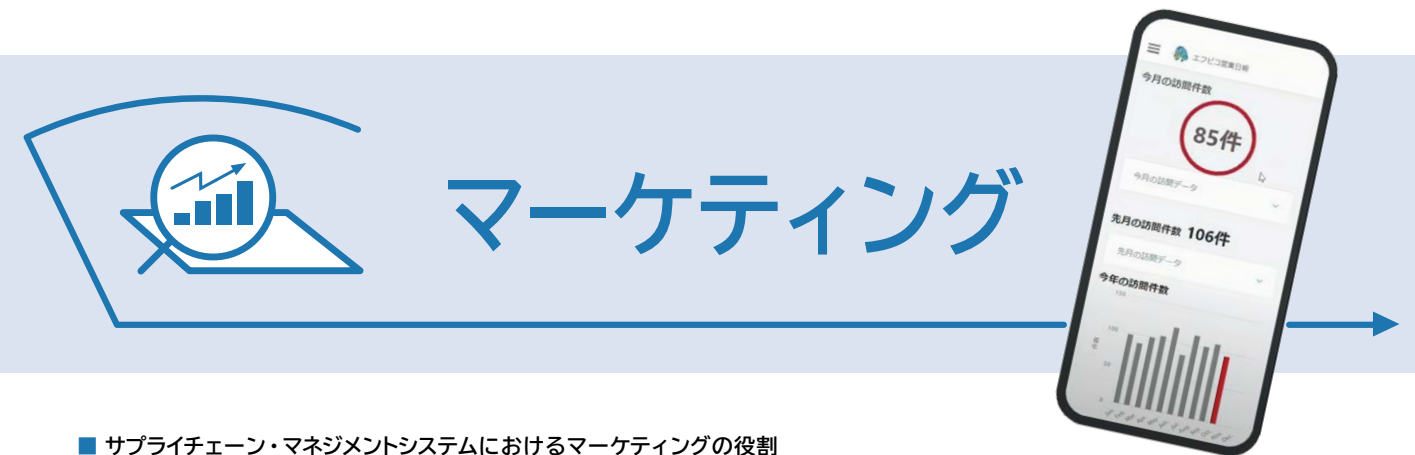
アイデアの創出

課題解決に繋げる
付加価値を付与した
製品開発のための提案

企画の立案・実施

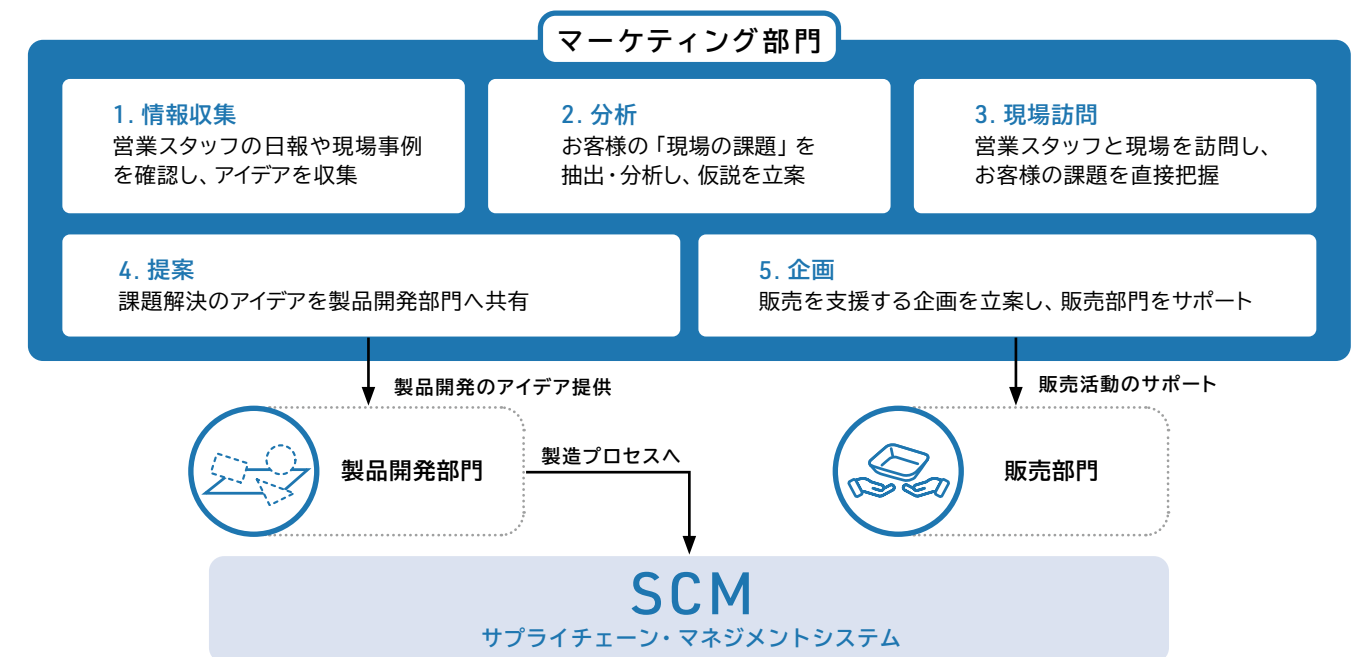
販売を支援する
効果的な
コミュニケーション戦略

マーケティング部門の任務は、情報を価値に変換すること。販売部門の営業スタッフが食品販売の現場で収集したリアルな声は「日報」としてマーケティング部門に集約されます。その膨大なデータをAIを活用して分析し、顧客ニーズや市場動向を踏まえたアイデアを考案して製品開発部門に提供します。さらに、食品業界のトレンドを取り上げながら多彩なソリューションを提案する「エフビコフェア」の主導や、お客様・営業スタッフ向けの勉強会の実施など、販売支援の戦略を展開。これらの取り組みをニーズに応じたデザインや新機能を備えた製品開発へとスピーディに繋げることで、顧客満足度と競争力の向上を支えています。



マーケティング

■ サプライチェーン・マネジメントシステムにおけるマーケティングの役割



ニーズを形にする独自技術・ オリジナル素材と製品開発力

キーポイント

付加価値の創造

ソリューションを提供する
付加価値を内包した
新製品の開発

新素材の研究・開発

独自のノウハウを生かし
開発するエフピコ
オリジナルの新素材

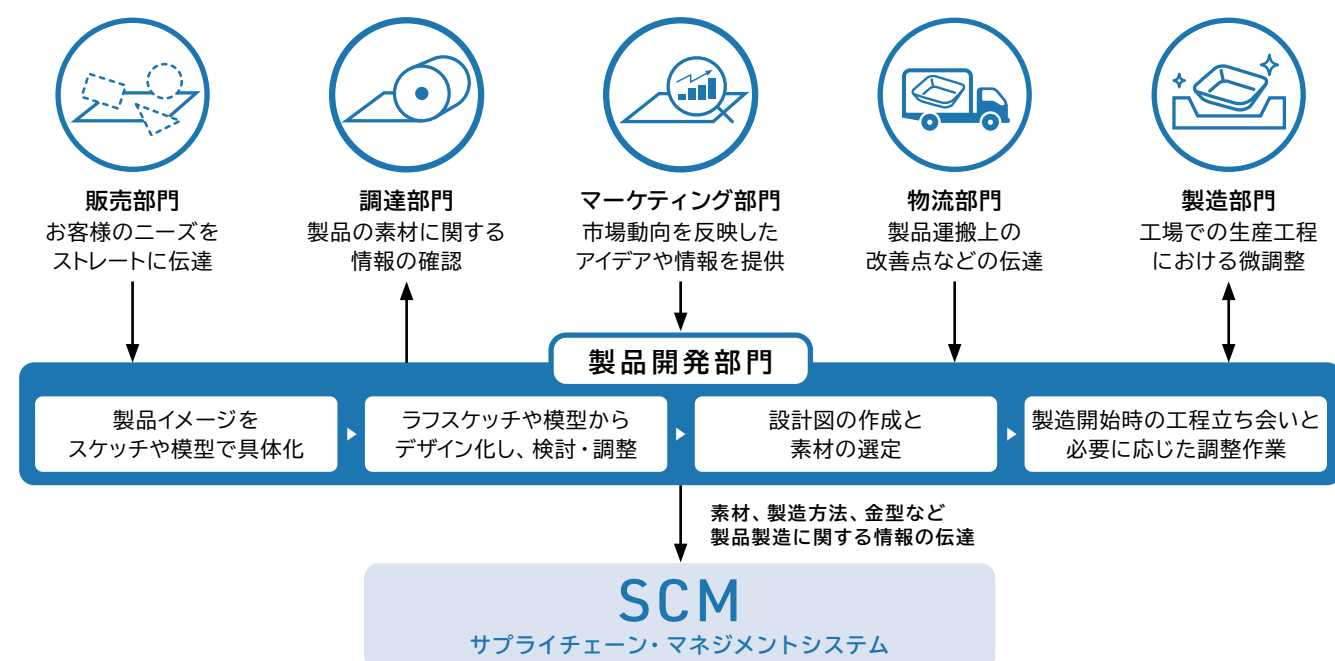
試験と検証

使用素材の
品質と安全性の
継続的な確認

価値の具現化という重要な工程を担う製品開発部門は、SCMの中で最も多くの部門と結びついています。その役割は、お客様のニーズや市場動向の反映、生産・物流の効率化など様々な付加価値を内包した製品開発に留まらず、生産部門と密接な情報交換による製品設計精度の向上まで多岐にわたります。製品開発の拠点は、福山本社の正面に位置する「エフピコ総合研究所」。独自の技術を駆使して生み出される新製品は、年間約1,200アイテムに上ります。さらに同所内の基礎技術研究室では、新たなマーケットの創出を目指して新素材の開発にも取り組んでいるほか、安全・安心な食品容器を製造するために、使用する素材の品質と安全性の検証も行っています。



■ サプライチェーン・マネジメントシステムにおける製品開発の役割



生産の全国ネットワークと高度な自動化・ 人材育成で安定供給を実現

キーポイント

製品の安定供給

4つの大型拠点を含む
全国21カ所に配置した
生産工場の計画的な稼働

生産の効率化

最大限にロボットを導入
することによる高度な
自動化・省人化の追求

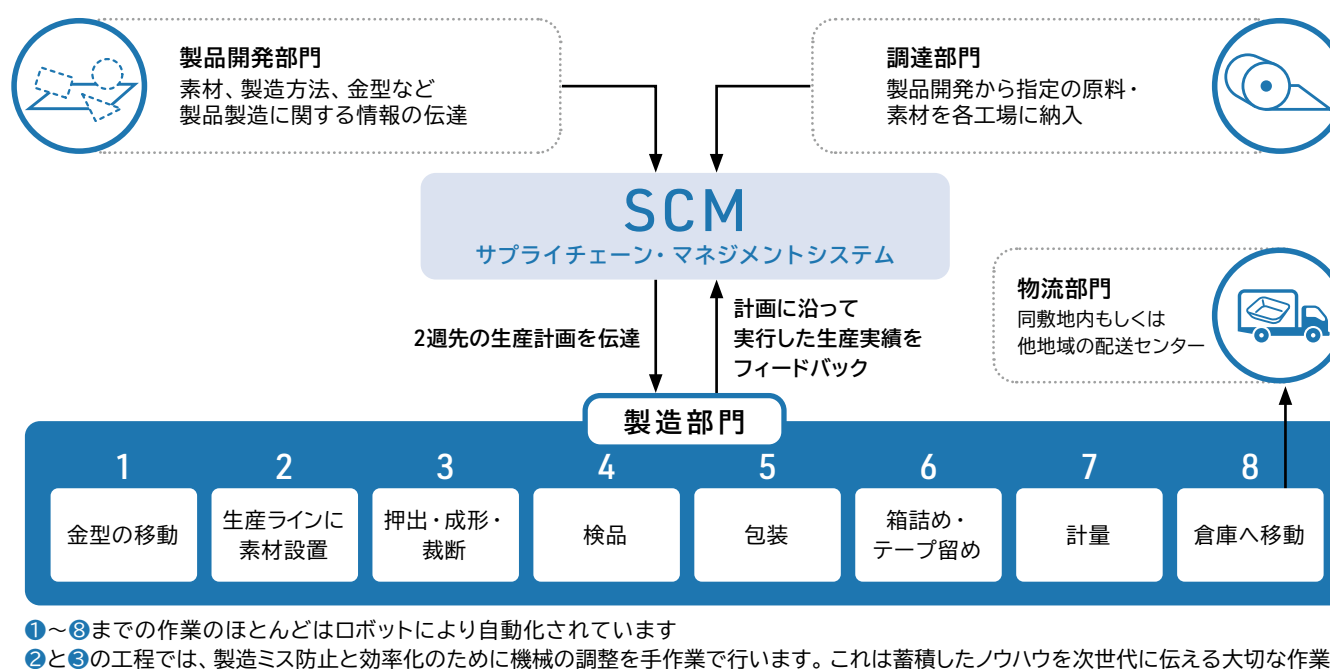
人材の育成

生産工程の熟知と
技能の熟練に向けた
育成プログラムの実施

製品の安定供給に加え生産の効率性を維持し続けることが製造部門の責務です。SCMからの生産指示を受け、全国21カ所の工場を効率的に稼働させることで、日本全国のお客様への迅速な対応と堅実な供給体制を実現しています。各工場ではロボットを活用したオートメーション化を推進し、人手不足に対応する製造ラインを構築することで省人化を図っています。多くの工程を機械に任せている一方、人の手が必要となる工程に関しては、先輩社員とのペアリングで技術を学ぶ「マンツーマンリーダー制度」や、技能の熟練度を確保する「技能判定」を取り入れ、高度な技術力と確かな生産力を発揮できる人材育成を行っています。



■ サプライチェーン・マネジメントシステムにおける製造の役割



①～⑧までの作業のほとんどはロボットにより自動化されています
②と③の工程では、製造ミス防止と効率化のために機械の調整を手作業で行います。これは蓄積したノウハウを次世代に伝える大切な作業です

物流ネットワークシステムにより 必要なときに確実にお届け

キーポイント

自社物流

製商品をお届けし
使用済み容器を回収する
エフピコの**循環型バリュー
チェーン**を可能にする

物流の効率化

拠点から**半径100km
圏内**で**全人口の85%**を
カバーするネットワーク

作業の最適化

**入荷、在庫、出荷、
ピッキング、配送**のすべてを
正確かつ迅速に
実施するための各種施策

エフピコの物流部門の大きな特徴は、問屋機能を持つ倉庫業務とお客様に製商品をお届けする配送業務の両方を行う物流ネットワークを自社で構築していることです。それにより、製品の生産に合わせた金型移動、生産した製品の在庫管理、拠点間の製品横持ち、仕入れた商品と製品を同梱するピッキング、そして出荷・配送までの一連の業務を生産本部、営業本部と連携してスムーズに実行。それぞれの業務においても配送管理のルートプランナー、倉庫内作業のオートメーション、音声ピッキング、配送状況確認（RDチェック）システムなどの効率化施策により、お客様に「必要なときに確実にお届けする」体制を整えています。そして、製商品配送後の帰り便に使用済み容器を積んでリサイクル施設へと運び、エフピコの循環型バリューチェーンを回す要ともなっています。

“現場主義”に根ざしたお客様視点の ニーズ発掘と多彩な提案

キーポイント

ニーズの把握

“**現場主義**”の理念に則った
営業活動による
情報・ニーズの発掘

提案手法の工夫

「**エフピコフェア**」を
はじめとする**多彩な
提案型営業**の展開

循環型リサイクルのサポート

容器を使用する
店舗が発着点となる
“**ストア to ストア®**”の推進

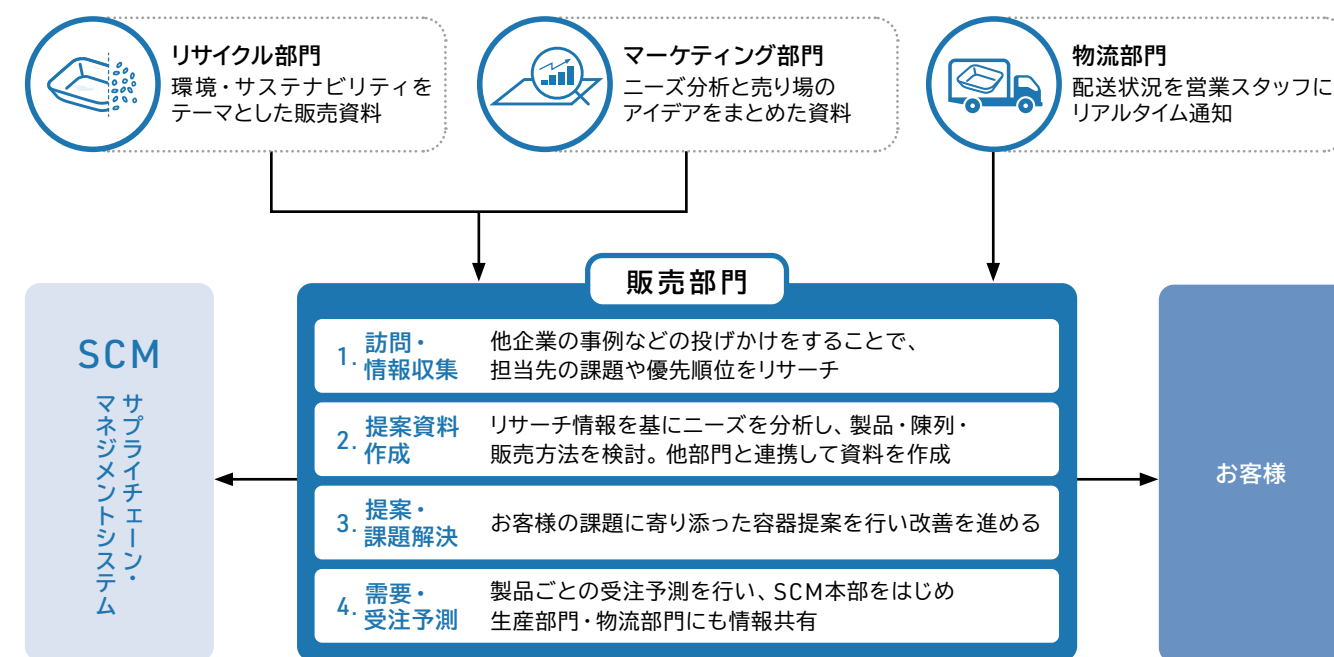
販売部門のスローガンは「月に100人と商談・情報交換すること」、「お客様のファーストコールカンパニー（FCC）になる」こと。食品売り場を頻繁に訪れ、現場の課題や要望を収集し、得られたリアリティのある情報は「日報」としてマーケティング部門に集約され、分析結果は販売部門にフィードバックされます。これを販売部門ではお客様に応じた新たな企画・アイデアとして現場で提案し、さらに情報を収集するサイクルを確立しています。また、食品売り場を再現した大規模プライベートショー「エフピコフェア」など、多くのお客様と直接対話して製品の付加価値を伝える提案型営業も特徴です。リサイクル製品の販売拡大も重要な任務であり、店舗を発着点とするエフピコ方式リサイクルの「ストア to ストア」の推進にも尽力しています。



■ サプライチェーン・マネジメントシステムにおける物流の役割



■ サプライチェーン・マネジメントシステムにおける販売の役割



全国を網羅した回収・リサイクル拠点により 使用済み製品を新たな製品へ

キーポイント

リサイクル原料の製造

使用済み製品を
付加価値のある
原材料として再生

全国ネットワークの構築

各地に配置した自社の
リサイクル拠点が
全国をカバー

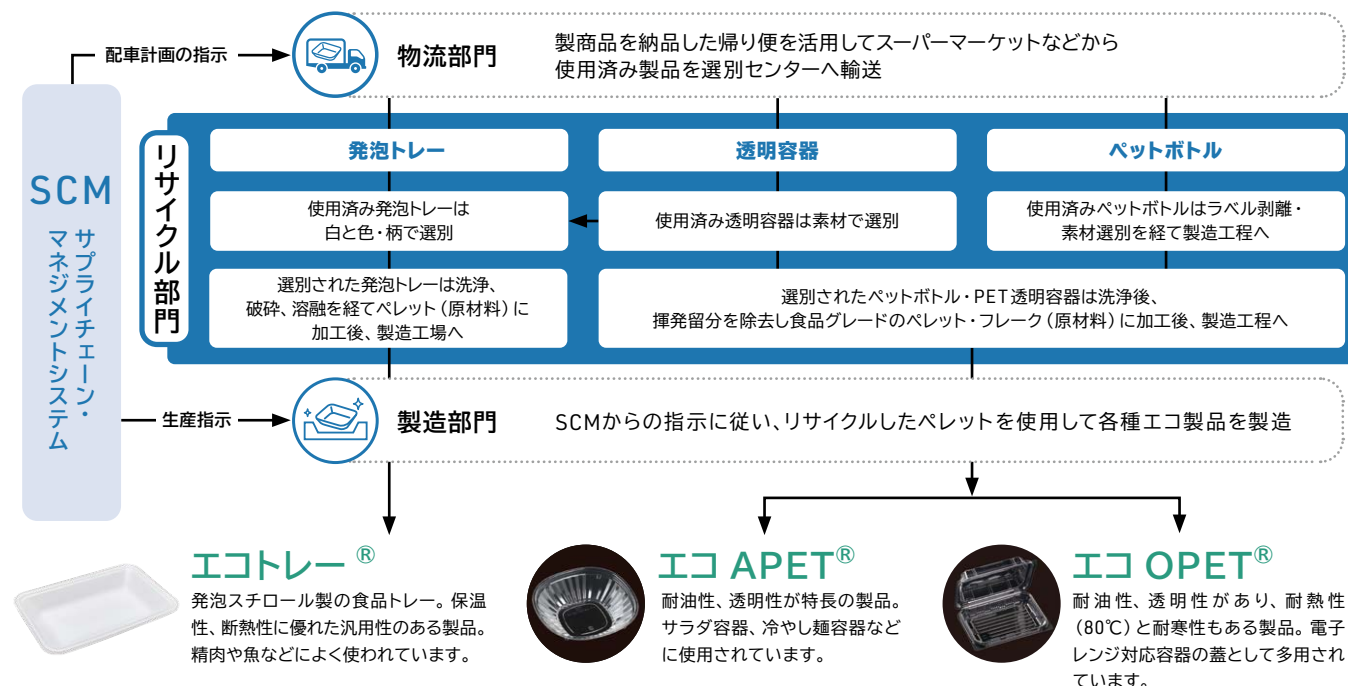
循環の輪の強化

販売部門との連携により
“**ストア to ストア®**”の
啓発を推進

リサイクル部門は、回収された使用済み容器の再生をすることにより、SCMの循環の輪を完成させる役割を担っています。全国に配置された17のリサイクル関連施設では、スーパーマーケット様などから回収された1日あたり約40トンもの使用済み製品を選別・洗浄・粉砕・溶融の各工程を経て新たな原材料であるペレットへと再生。こうして生まれたペレットは生産工場へと送られます。また、使用済み透明容器の素材選別に最新のテクノロジーを取り入れることで、より効率的で的確なリサイクルを実現。製品の品質向上に寄与しながら、持続可能な循環システムの拡大と環境負荷低減を常に目指しています。



■ サプライチェーン・マネジメントシステムにおけるリサイクルの役割



バリューチェーンによる価値創造とその成果

脱墨技術を活用したポリスチレンの 溶解分離によるリサイクル素材の調達

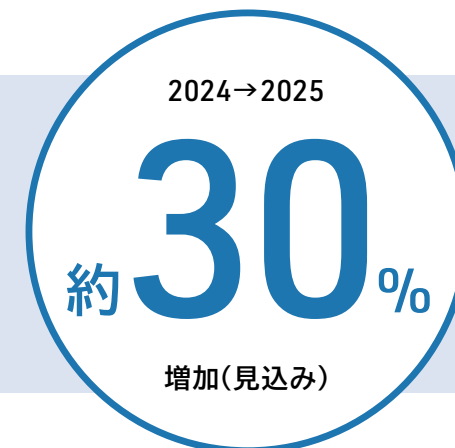
エフピコは、スーパーマーケットなどに設置された全国約11,000カ所の回収拠点から使用済み食品トレイ・透明容器を回収し、リサイクルしています。使用済みの白色发泡トレイはエコトレーとしてリサイクルしています。しかし、色柄付き发泡トレイは再生ペレットが黒色になってしまうため、ハンガーなど主に日用雑貨品に再生利用されていました。

この課題を解決するため、エフピコはDIC株式会社様と連携し、2024年11月に溶解分離リサイクル設備を擁するDIC四日市工場が竣工しました。同設備では、「溶解分離リサイクル技術（Dic法）」を活用し、色柄付き发泡トレイから着色成分を分離して透明なポリスチレン（PS）が再生されます。これにより食

品トレイへの再利用が可能となることで、年間約1万トンのリサイクルポリスチレンの供給が期待されており、エフピコは使用済み食品トレイのリサイクルにおいて新たなステージに進みました。画期的なこの技術によってエコトレーの販売ケース数が約30%増加が見込まれます。

さらにこの溶解分離に加えて、ケミカルリサイクル（モノマー還元）を組み合わせたポリスチレンの完全循環型リサイクルの実現を目指します。このように、エフピコは持続可能性を引き上げる新技術の開発に常に取り組みながら、エコ製品の拡大と食品包装容器のライフサイクルにおけるCO₂排出量削減を積極的に推進して、資源の有効活用に大きく貢献していきます。

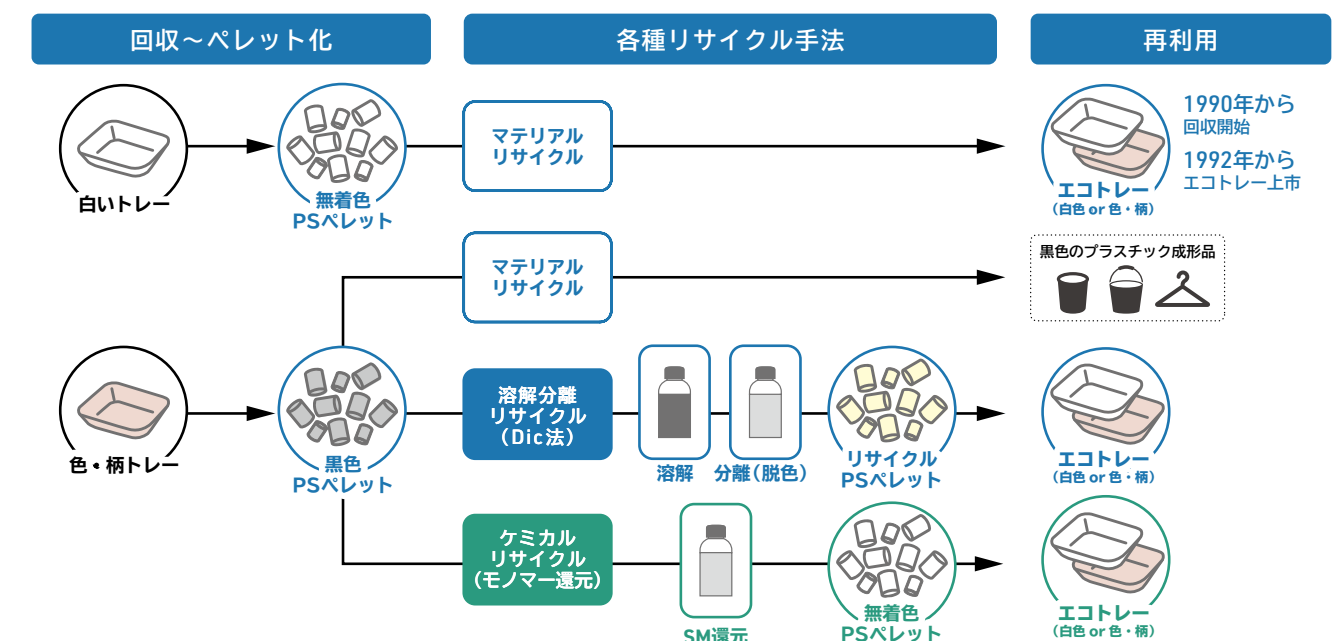
溶解分離リサイクル
の技術による
エコトレー®販売
ケース数増加率



関連するSCM



■ ポリスチレンの完全循環型リサイクルの各種リサイクル手法



充実した安定供給体制でほぼ欠品ゼロを継続

エフピコはAI予測に生産・物流現場の実績データを加味し、生産予測の精度を上げているSCMにより、2020年9月以降現在までほぼ欠品ゼロを続ける中で、生産・物流計画を確実に実行するための体制の整備を継続的にを行っています。

全国に21の工場を配置しているほか、巨大商圏のあるエリアには生産工場、物流センター、リサイクル施設を集約した4つの大型拠点を設けています。「物流」のパート(P.25)で説明した通り、事業運営にカスタマイズした自社物流システムを持つエフピコでは、4大拠点を始めとして生産工場と物流施設をペアリング配置し、確実かつスピーディに“つくってお届けする”体制を整えています。関西工場・ハブセンターが稼働した2023年以降は、各配送センターから100km圏内で日本の人口の約85%をカバーする物流ネットワークを完成させました。

また、関西ハブセンター稼働の効果により配送ドライバーの労働環境も改善され、「物流2024年問題」の課題解決にも繋がりましたが、ドライバーの拘束時間短縮や人手不足への対応も安定供給には不可欠です。エフピコでは生産と物流の現場における省人化を推進しており、生産工場ではほとんどの作業をロボットで自動化することにより、1ラインあたりのスタッフは約2.5人のみ。物流センターではケースを搬送する無人搬送車や無人フォークリフトが活躍し、出荷アイテムを梱包するピッキングではハンズフリーで集中力を高める音声ピッキングにより作業の正確性と効率性による省人化を実現しています。

また物流施設では災害などの非常時にも電気を72時間供給できる非常用電源装置を備えており、製商品の配送を途切れさせないリスク管理を行っています。



生産工場と物流施設のペアリング：生産工場と物流のハブセンターを繋ぐ通路により、タイムリーで効率的な製商品の出荷が可能に

需要予測から
生産・配送までを
高精度で実行する
体制と施策

ほぼ欠品

0

をコロナ禍以降
継続

日本の人口の

85%

をカバーする
物流ネットワーク

関連するSCM



中部

東北

関東

関西

東海

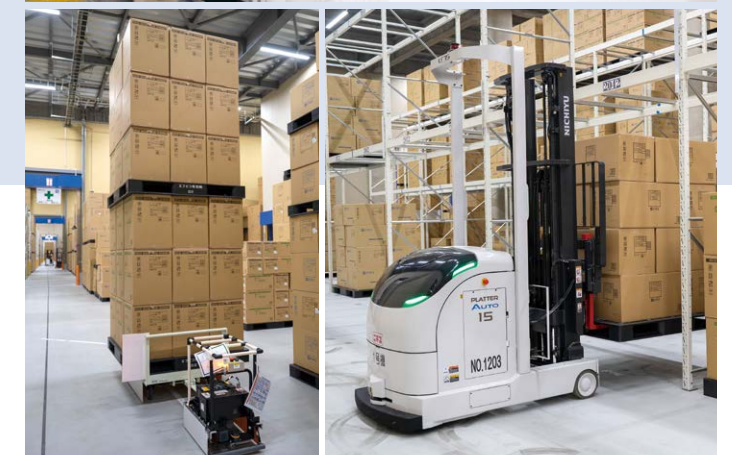
八王子

福山

九州



エフピコの物流を支えている配送センターで活躍する若い力



人手不足への対応：生産工場・倉庫内の各種作業をロボットにより省人化



非常時の電源供給：物流拠点に設置の非常用発電装置が電気を72時間供給

スーパーマーケット様との協働による 使用済み製品のリサイクル率向上とエコ化率の上昇

エフピコは、1990年に「エフピコ方式リサイクル」を開始し、消費者の皆様、スーパーマーケット様、包材問屋様、エフピコの4者が一体となったリサイクルモデルを発展させてきました。現在では、使用済みの発泡トレー・透明容器を回収し、新たな食品容器へと再生する「トレー to トレー」や使用済みのペットボトルを製品へとリサイクルする「ボトル to 透明容器」を推進。さらに2020年からは「ストア to ストア」というコンセプトを打ち出し、使用済み製品の回収量増大に向けた取り組みを進めています。これは、店舗で使用・販売した食品トレー・透明容器、ペットボトルを同店舗で回収し、エフピコが食品トレー・透明容器として再生し、再びその店舗で積極的に使用いただくというリサイクルの仕組みをアピールし、スーパー

マーケット様が地域のエコリーダーになる活動です。お店を発着点とする日常的な習慣へと促すことで、食品の販売を行うスーパーマーケット様と購入する消費者の方、双方のリサイクルへの意識を高めることを目的としています。その成果として、協働いただいている店舗での回収量は年々増大しており、エフピコ製品のエコ化率も48%だった前年度から今年度は約51%まで拡大しました。そして現在、この取り組みに賛同するスーパーマーケット様は100社以上、約3,000店舗にまで広がっています。

今後も全国のお客様との協働により売り場と連携した「ストア to ストア」を継続し、使用済み製品の回収とエコ製品の使用の促進を目指していきます。

エコ製品の販売によるCO₂削減貢献量が 自社グループ事業活動のCO₂排出量を上回る！

エフピコは、2022年3月に気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明し、「中・長期環境計画 FPEA2.0」を策定。2025年3月期までにグループのCO₂排出量とエコ製品によるCO₂排出削減量をバランスさせる（オフセットする）目標を掲げていましたが、エコトレーをはじめとするエコ製品の販売増加により、1年前倒しとなる2024年3月期に達成しました。

エフピコのエコ製品の伸長は、お客様のCO₂排出量削減にも貢献しています。例えば、中国シジシー様では2021年のCO₂削減量902トンを超え、2023年には1,157トンまで拡大し、128%の削減効果を実現しました。このような取り組みを通じて、「環

境を意識した製品を選ぶ」ことが、消費者の支持を得る上で重要であることがわかります。

また、2024年3月14日から関東・福山・中部のリサイクル工場の電力すべてを太陽光で稼働させた効果も手伝い、エコ製品の製造・販売によるCO₂排出量削減は7月1日の出荷分以降30%から37%へ拡大しました。厳密な計算の結果、エフピコがエコ製品を製造・販売することで年間20万9,000トンのCO₂削減を達成し、バージン原料を使用する場合よりも大幅な環境負荷低減を実現しています。

今後もエフピコは、さらなるエコ製品の拡充とリサイクル体制の強化を進め、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

エフピコ製品
全体のエコ化率
(枚数ベース)

2025年3月期
51%
2024年3月期
実績(48%)

関連するSCM



バージン原料の
トレーと比較した
エコトレー®による
CO₂削減率

約**37%**
2024年7月1日出荷分より
7%上昇

関連するSCM



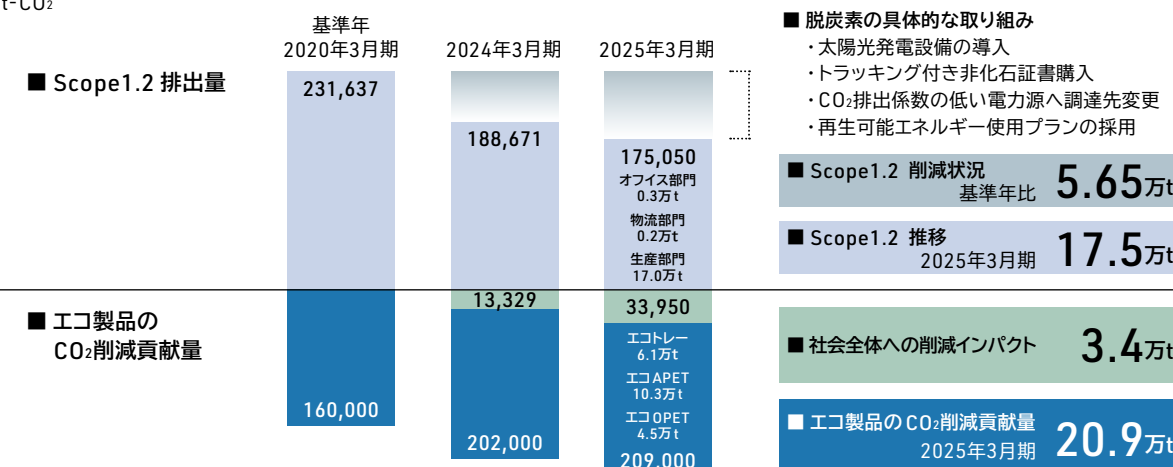
■ お店が地域のエコリーダーになる「ストア to ストア®」のリサイクル

「お店」で使用・販売された食品トレー・ペットボトルは、その「お店」で回収。
エフピコで食品トレー・透明容器に再生し、再生した食品トレー・透明容器をその「お店」で積極的にご使用いただきます。



■ エフピコグループの地球環境課題への取り組み

エフピコグループ全体のCO₂排出量 (Scope1.2) と、エコ製品の販売によるCO₂削減効果の関係図
単位: t-CO₂



当社は、社会価値と経済価値のさらなる拡大を目指し、エコ製品が社会や環境に与える影響を示すインパクト指標として、CO₂削減貢献量を計測しています。2024年3月期には、エコ製品の販売によるサプライチェーン上のCO₂削減効果が自社の活動におけるCO₂排出量 (Scope1.2) を上回りました。今後も脱炭素社会の実現に向け取り組んでいきます。

「エフピコフェア」開催で売り場を再現し、実践的な方法で付加価値を広く提供

エフピコは、お客様にとって実用的で価値のある提案を行うための展示会「エフピコフェア」を毎年開催しています。単なる製品展示に留まらず、実際の売り場環境を再現することで、お客様の商品をより魅力的に見せる工夫や、目的に応じた売り場づくりのヒントを得られる場として高い評価を受けています。

エフピコフェアは、1976年6月に「パールフェア」として第1回目を開催。当時、食品容器メーカー単独の展示会は珍しいものでしたが、今では3日間のフェアで約15,000人のお客様が来場する一大イベントに成長しました。収集した情報（価値）を製品製造に活かすだけでなく、お客様に広く提供（情報公開）していることが、多くの来場と高い支持の大きな理由です。2025年4月のフェアでは「サイズも見映えも機械化もしっかり

対応一叶える容器」をテーマに様々な提案を実施。全国のエフピコ営業担当が集めた情報や売り方、そして商品をご紹介します。ながら、業界の最新トレンドや課題を踏まえた展示を行いました。

さらに、関東以外のエリアでは「ミニフェア」を開催し、よりお客様の現場に近い環境で、課題に即した提案を重ねています。お客様との密接な連携により、エフピコは製品を提供するだけの企業ではなく、お客様にとっての「ファーストコールカンパニー（FCC）＝最初に相談される企業」を目指しています。

常に売り場のリアルな課題に寄り添い、具体的な解決策を提示することで、お客様に大きな価値を提供し続けます。今後も、業界の変化に対応しながら、より実践的な提案を通じて、食品流通の現場を支えていきます。

エフピコフェアの
平均来場者数

3日間で
約 1.5 万人

関連するSCM



プラスチックの使用量削減による製品の軽量化

エフピコは、環境負荷の低減や資源の有効活用、お客様の課題解決を目指し、プラスチック使用量の削減に取り組んでいます。

2023年より、薄くて強い素材で製造した従来のHIPSソリッド容器から新低発泡PSP容器への切り替えを開始。プラスチック使用量を最大約60%削減しながら、十分な強度を維持することに成功しました。特に、大型の寿司桶などへの採用により、環境負荷の軽減と輸送コストの削減にも貢献しています。今後も低発泡化容器のシリーズ展開を進めていきます。

また、透明な惣菜容器の軽量化も進めています。かん合フードバック（透明容器）では、エフピコ史上最軽量となる約20%の軽量化を実現。加熱を必要としない冷惣菜やサラダ向けの「APデリオ」では約13.1%、温惣菜や弁当など加熱が必要な食品向けの

「MSDデリオ」では約7.5%の軽量化を達成し、2025年春までにすべての汎用惣菜容器の切り替えを完了しています。

透明容器を軽量化するには、素材を薄くしながらも十分な強度を保つ高度な成形技術が不可欠です。とくに最薄設計では、音や質感によって伝わる脆さや簡素な印象を与えないよう、リブ構造の見直しと試作を何度も繰り返しました。力のかかる部位を考慮した設計や、0.1ミリ単位での寸法調整、液体を使った漏れ検証など、細部までこだわった開発には約20名の専門チームが携わり、軽さと信頼性を両立する容器が完成しました。

エフピコは、プラスチック軽量化技術の進化と長年の技術蓄積を活かし、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、市場でさらなる価値を創出していきます。

かん合フードバック
(透明容器)の
軽量化率

エフピコ史上最軽量！
約 20%
SATシリーズ

関連するSCM

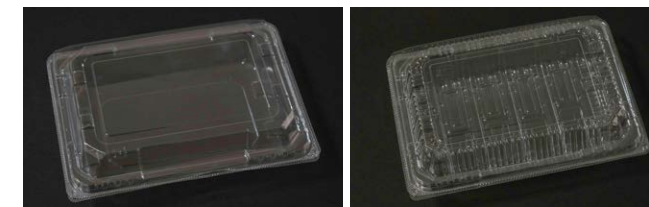


■ エフピコフェア2025 会場風景



■ エフピコ史上最軽量のかん合フードバック

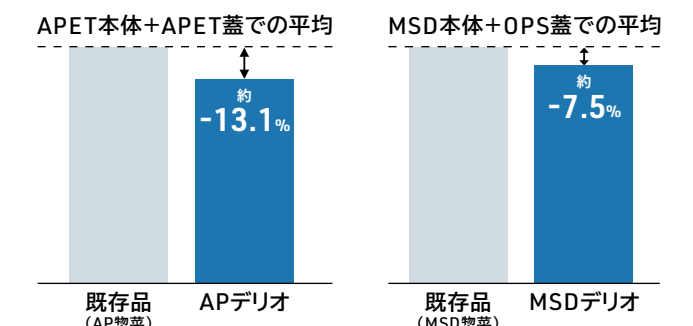
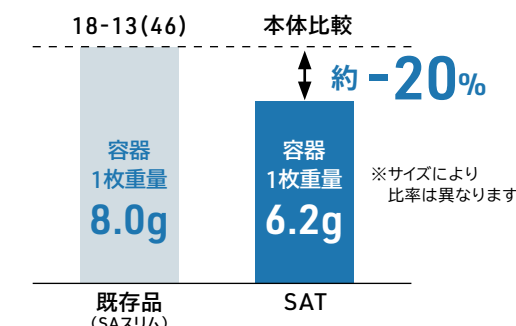
素材を薄くして単純に軽量化した容器（左）に強度を保つためのリブをデザイン設計（右）。強度を保ちながら幅広い用途に対応する軽量化を実現しました。



薄い素材の採用で軽量化を図りつつ、自動蓋閉め機に対応する強度や汁漏れしにくい高いかん合性を実現しています。



プラスチック使用量比較



長年の研究開発と「現場主義」から生まれた多種多様な価値を内包する エフピコ製品

CO₂排出量を37%削減
「エコトレー®」

エフピコ方式リサイクル「トレー toトレー」で作られたCO₂排出量を37%削減できるトレー。発泡素材のため、空気の層があることで断熱性、保温性に優れています。

軽量化されたエコ製品
「エコAPET®」

新製品のデリオシリーズは従来品より本体を薄肉化することで、約13.1%の軽量化を実現。薄くても容器が変形しないよう蓋のリブ（凹み）にも工夫をしています。



耐油性と耐寒性に優れた透明素材「エコOPET®」

耐油・耐寒性に優れたエコ製品。弁当の蓋にも使われ、レンジ加熱時に穴が空きにくいことが特長。冷凍保存しても衝撃で割れにくく、冷凍自販機用としても使用可能です。

透明でも電子レンジOK
「透明PP」

耐熱性・耐油性に優れているので、電子レンジで加熱しても変形が少ないです。また、PP素材はMCT油脂等により脆化せず、破損しにくい特長があります。

見映えと機能性を両立
「成形技術」

枠を設けることで商品をズレにくくしました。また、蓋の側面の角度を極限まで立たせることで、中身を見やすく、存在感を引き立てています。

盛付けの作業性を向上
「かん合技術」

蓋と本体をはめ込ませる「かん合技術」。例えば、中身を噛み込んでしまいやすい「内かん合」でも本体の形状を工夫することでこれを改善。盛付けの作業性を高めています。

現場の人手不足に貢献
「機械対応」

プロセスセンターやセントラルキッチンで機械を使った盛付けが一般化する中、食品トレー・容器も機械に対応。一つの容器でトップシール・蓋のどちらの包装形態にも対応できます。

オリジナル素材
8種類

出荷枚数ベース

68%

関連するSCM



マーケティング



製品開発

取得した意匠件数
(日本9位、2024年)
出所：特許庁

2025年3月期

187
件

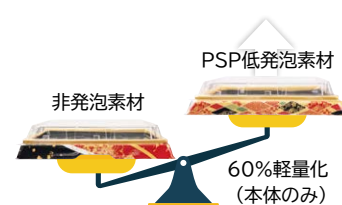
関連するSCM



マーケティング



製品開発

60%の軽量化を実現
「低発泡PSP」

日本初の低発泡PSPのシートと成形技術を積水化成工業株式会社と共同開発。従来のPSP発泡シートでは不可能とされてきたシャープな形状を可能にし、軽量化を実現しました。

プラ使用量25%以上削減
「耐寒 PPiP-タルク®」

従来の「耐寒PP製品」と同じ強度・耐衝撃性を維持しながら、プラスチック使用量を25%以上削減した「耐寒 PPiP-タルク」を新開発しました。冷凍食品市場の拡大に対応します。

レンジアップしても
熱くない「MFP」

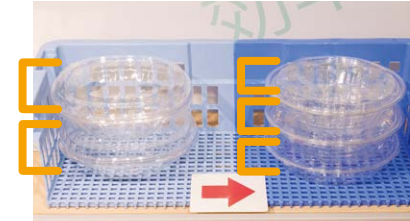
耐熱温度110℃のマルチFP（MFP）は、断熱性と保温性を両立することで、レンジで加熱した後に持っても熱くないことが特長。発泡素材のためプラスチック使用量も削減しています。

シャープな形状で
食卓を彩る「MSD」

光沢感と成形性に優れるマルチSD（MSD）は重厚感かつシャープな形状、つや感により売り場と食卓の両方を彩ります。スタック性に優れ、バックヤードでも場所を取りません。

食品を際立たせる
「色・柄・デザイン」

食品トレー・容器にグラビア印刷をするための「インク」を改良し、新たな金色を開発。輝度を高めることで見映えを良くし、食品をさらに彩り鮮やかに見せています。

コンテナ効率を高める
「輸送適性」

プロセスセンターの活用で輸送コストも増加傾向にあります。コンテナ内の積載効率を高めるために、容器サイズを見直したり、蓋を低く設定したりなど輸送適性が高い容器を開発しています。

開けやすさを追求
「蓋のベロ形状」

蓋の角に三角形の“ベロ形状”を採用。本体にはめるとベロがわずかに浮き上がる構造で、つまみやすさと開けやすさを実現しました。この独自形状は特許を取得しています。

SPECIAL CONTENTS

特集

価値創造の源泉

～“いい会社”を目指し、エフピコらしく働く～



2024年9月7日に福山のエフピコアリーナで開催した「エフピコ感謝祭」の様子。グループ社員とその家族1,000人以上を招待したイベントで、なごやかな人の輪が自然と生まれました。

感謝祭に先立って行われた「NIKKEI 社歌コンテスト2025」に応募するための動画撮影シーン。結果は見事大賞と審査員賞の栄冠に輝きました。



“エフピコらしさ”の原点

社会に求められる価値を生み出すために、エフピコが創業以来大切にしてきたものとは？
40年以上にわたり会社と共に歩んできた専務取締役の高橋正伸が“エフピコらしさ”について語りました。

“幾多の挑戦と試練を乗り越え、
“エフピコらしさ”は育まりました”

Profile

専務取締役営業本部本部長
高橋 正伸

1982年の入社以来、営業部門一筋で勤務。2005年に取締役、2014年には子会社であるエフピコインターパック株式会社代表取締役役に就任。2018年にエフピコに復帰し、常務取締役第一営業本部本部長を務めた後、2019年より現任。



“エフピコらしさ”と聞いて私が最初に思い浮かべるのは「団結力」という言葉です。エフピコでは、「現場主義」や「顧客第一主義」などの経営理念に沿って、経営トップが明確で力強い命題やビジョンを社員に提示します。そのため、社員たちは迷うことなく協力し合い、積極的にコミュニケーションを取りながら行動します。こうした職場環境の中で、自ずと人と人との距離が近くなり、社内全体に一体感が生まれてきたのでしょう。

エフピコは、カラートレーの製造・販売、自社物流の展開、使用済み製品のリサイクルなど、業界に先駆けて数々の新事業に取り組み、発展させてきました。「団結力」の強さは、こうした挑戦と成功の歴史の中で醸成された企業風土だと言えます。

リサイクル事業の初期段階の話が良い例です。当初は、スーパーマーケット様に大きな手間をおかけしていました。サービスカウンターにて使用済み食品トレーを10枚単位で受け取った後、まとめてエフピコに渡すという作業です。お客様であるスーパーマーケット様にご負担を強いる以上、プロジェクトを軌道に乗せるために社員は懸命に努力しました。私たちは部署を横断して力を合わせ、その苦勞を乗り越えました。そして今では、全国約11,000カ所に設置された回収ボックスで使用済み製品を集める方法によって、より効率的かつ効果的な製

品リサイクルを行っています。

そんなエフピコの企業風土の育み方は、時代の変化に合わせて進化しています。例えば、今年度から始まった「ワイガヤ会議」があります。それは、社員と経営陣がざっくばらんな雰囲気の中で意見交換をする場です。大きな挑戦というシビアな環境下だけでなく、普段の業務でも立場を越えてお互いの声に耳を傾ける機会を設けることで、社内の透明性が高まり、社員同士が繋がりがやすいオープンな雰囲気が生まれました。

一方で、長年続く取り組みもあります。エフピコ創業の地である福山はバラの産地として有名です。そのご縁もあり、エフピコは社員の配偶者の誕生日にバラを毎年プレゼントしているのです。このように親密な恒例行事はエフピコの規模の会社では珍しいかもしれません。

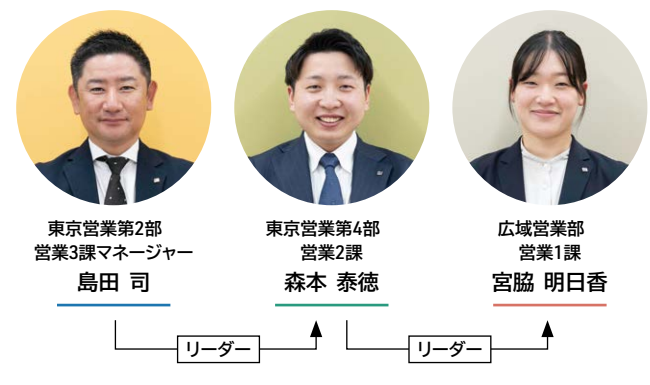
変わらない“エフピコらしさ”の源泉は、職場から自然と生まれる他者への気遣いや思いやりだと思っています。「“いい会社”とは何か？」という問いに、「昨日より今日、今日より明日が良くなっていく会社」と答えます。毎日少しずつでも成長し続けること。それが、日々挑戦を重ね、一致団結して成功をつかむエフピコの目指す姿です。この姿勢を貫く限り、エフピコは“いい会社”を次世代へと繋いでいけると信じています。

座談会

マンツーマンリーダー制度で 受け継がれていく “エフピコらしさ”

エフピコでは、新入社員を育成するために「マンツーマンリーダー制度」を全社的に導入しています。新入社員は教育係となる先輩社員と1年間ペアを組み、エフピコ流の仕事の進め方だけでなく、社会人として大切なことを学びます。そこで、営業部でバトンを受け継ぎながら仕事に励む3人に、エフピコならではの職場環境の魅力について話してもらいました。

座談会参加メンバー



「顧客第一主義」に結びつく、 後輩への細やかな気遣いと指導

宮脇：一般的に、入社直後は誰に何を聞けばいいのかわかりません。でも「マンツーマンリーダー制度」のおかげで安心感があつたことをよく覚えています。同行営業の際、教育係の森本さんに商談の仕方を一から教えていただき、商談後も車内で不明点を確認できたのでとても助かりました。

森本：宮脇さんに合ったコミュニケーションを意識して、伝わりやすいアドバイスを心掛けていました。女性であることも含め、どのように伝えるか日々工夫していました。

宮脇：お気遣い、ありがとうございます（笑）。お客様の依頼に素早く対応できた時に褒めてもらえたことが嬉しかったです。反対に、うまく対応ができなかった時にはきっちり注意を受けましたね。森本さんの入社当時はどうでしたか？



森本：島田さんが積極的に話しかけてくださったので、早い段階から仕事がしやすかったです。

島田：森本さんとは年が離れているから、心の距離を縮めるために、時にはプライベートな話題も交えながら話しかけるようにしていましたね。

森本：島田さんは、お客様に対して親身に対応することで多くの案件を受注していました。でも仕事量が多く、当初はすべてのやり方を受け入れるのが難しかったです。のちに現場で働く中で、そうした丁寧な行動が成果に繋がり、人間関係の構築において欠かせないことを実感しました。お客様に喜んでいただくこと、つまり「顧客第一主義」の大切さを深く理解しました。今もその経験が自分の仕事の軸にあります。この想いを、言葉だけでなく行動でも後輩に受け継いでいきたいです。

丁寧な仕事が生まれる、 社員同士が和やかな職場

宮脇：入社2年目なので、まだ社内のすべてを把握しているわけではありませんが、会社が労働環境をより良くしようと努めているのを感じます。例えば営業部では、2024年度よりフレックス制度の導入が始まり、お客様に合わせた時間の使い方ができるようになりました。

森本：だから働きやすくて、社員同士のつきあいもとても良好です。悩んでいると先輩が察して声をかけてくれますし、厳しめの指導を受けた際にはフォローもしてくれます。

心の距離が自然と縮まる職場環境が 受け継がれていけばいいですね

島田：私も入社当時に悩んでいた時、先輩方のちょっとした声かけがとてもありがたく感じました。だから後輩が困っていそうだったら、疎んじられることを恐れずに積極的に声をかけています。それと同時に、普段はあまり干渉しすぎないようにもしています。

森本：おかげさまで人間関係に悩むことなく成長できています。社内結婚が多いのもエフピコらしい社風のひとつですね。職場恋愛って敬遠されがちですが。

島田：エフピコは社員同士が和やかだから、社内結婚も生まれやすいんだと思います。

一致団結して育て上げる、 “エフピコらしさ”と“いい会社”

島田：“エフピコらしさ”と聞いて、他に思い浮かぶことはなんですか？

宮脇：足で稼ぐこと。お客様と実際にお会いして課題に対する理解を深めるといった「現場主義」ですね。

森本：私も、現場でのお客様との強いつながりに“エフピコらしさ”を感じます。先輩方が積み重ねてきた信頼の土台がとても心強いです。

島田：たしかに2人のように、「現場主義」や「顧客第一主義」という会社の方針がグループ全体で共有できているところはエフピコらしいです。だから目標に対してチーム全員がぶれることなく、走り切れる。そこがエフピコという会社のいいところのひとつだと思います。数年前から、エフピコでは“いい会社”について話し合っていますが、2人はどんな意見を持っていますか？

宮脇：“いい会社”とは、現場の声が反映される会社だと私は思います。現場と経営陣とのフランクな意見交換を行う「ワイガヤ会議」が昨年から実施されています。そこで出た私たちの意見がすぐに制度の見直しに反映されたことがありました。形だけの会議ではなく、対話がしっかりと労働環境の変化に活かされるのでモチベーションが上がります。

森本：“いい会社”の定義は人それぞれ異なるでしょうが、営業の立場である私の考えでは、お取引先様と共に業績が右肩上がり成長していく会社です。だからこそ、数字に対して責任を感じながら日々仕事をしています。

島田：私も森本さんと同じ意見です。会社の業績を常に向上させることが、みんなにとって“いい会社”であるために重要だと考えています。そのためには、働く社員が仕事に情熱を持ち、一致団結して目標に向かう“エフピコらしさ”が大切だと感じています。

障がいの有無を超えて

エフピコのリサイクル事業の根幹でもある使用済み食品トレー・容器の選別作業を担う障がいのある人材と、職場で共に働く社員が集まり、エフピコらしい働き方について語り合いました。

職場でのインクルージョンを目指し、エフピコは障がいのある人材が安心して活躍できる環境づくりを進めています。大切にしているのは、「支える」のではなく「共に働く」こと。そのように障がいの有無を超えて取り組む日々の業務を通じて、互いに尊重し合い、自然と支え合う文化を築いてきました。

一人ひとりが自分の可能性を広げることができ、自信を持って働ける。挑戦し、助け合い、仕事を通じて共に成長できるこの職場環境は“エフピコらしさ”そのものと言えるでしょう。仲間と達成感を分かち合えるポジティブな雰囲気は、「いい会社」をつくる大きな原動力のひとつです。



共に働く仲間たち

- | | | |
|---|--|--|
| エフピコ愛バック(株)
茨城工場
サービス管理責任者
1 鹿久保 奈津美 | エフピコ愛バック(株)
茨城工場
統括部長
2 堀 良男 | エフピコダックス(株)
茨城選別工場
リーダー
3 佐古 宇規 |
| エフピコダックス(株)
茨城選別工場
(主任補佐)
4 西田 真一 | エフピコダックス(株)
茨城選別工場
工場長
5 中村 広太郎 | エフピコダックス(株)
茨城選別工場
6 檜物谷 有沙 |
| エフピコ愛バック(株)
茨城工場
7 田中 香 | エフピコダックス(株)
茨城選別工場
リーダー
8 鈴木 佳奈 | |



“ 障がいの有無を超えて
同じ目標に向かう意識が
私たちの原動力になっています ”

<職場の環境づくり>

佐古

業務目標の達成状況をグラフで共有し、振り返りと改善を促すことで達成感が生まれ、仕事への意識が向上しました。また、障がいのある社員同士が協力し合うことで、思いやりとチームワークが育まれています。

鈴木

役割を明確にし、できる範囲を広げることで仕事へのモチベーションがアップします。例えば、みんなのお弁当の注文業務をお願いするときに、確認の重要性を認識しているので責任感が養われていると感じました。

田中

チームとして協力することで、思いやりの心や助け合うことの大切さを学びながら、より良い仕事ができるように心掛けています。

佐古

その日の体調や状況によって業務に影響が出ることもあるので、周囲のスタッフと情報を共有してフォローする体制を整えています。

<仕事のやりがいと成長>

西田

最初は仕事を覚えるのが大変でしたが、今は後輩に教えたり、みんなと協力しながら働けることにやりがいを感じます。

檜物谷

働くことで生活リズムが整い、自分に自信も持てるようになりました。

佐古

最初はサポートが必要だったことも、経験を重ねるうちに自ら工夫して主体的に取り組むようになりました。今では私たちが障がいのある社員から学ぶことも多いです。

鈴木

社員旅行が近づくと、みんなのやる気が高まります。楽しみが励みになっていますね！

西田

お給料で新しいゲームソフトを買いました！趣味の広がり仕事のモチベーションに繋がっています。

田中

働くことでお金の大切さを実感しています。自分のお給料で家族にプレゼントを購入したり、日々の感謝の気持ちも伝えられるようになりました。

<未来への展望>

檜物谷

今の仕事だけでなく、新しい業務にも挑戦したいです。スキルを磨いて職場の仲間にとって頼られる存在になり、さらにチームへ貢献できるようになることが目標です。

鈴木

数字や実績をしっかりと可視化することで、障がいのある社員の活躍がより伝わるはず。社内だけでなく、社会全体に向けても発信していきたいです。

西田

もっと責任ある仕事を任せてもらえるように成長して、いずれは後輩を指導できる立場になりたいです。

佐古

障がいのある人が安心して働ける環境を広げ、誰もが活躍できる職場をつくりたいです。特別支援学校や保護者との連携を強めて働くことへの不安を解消しながら、より多くの人が自分らしく働ける機会を増やしていきたいと思います。

“ 共に働く意識が
自然と助け合う雰囲気を
生み出しています ”



社歌コンテスト 2025 大賞受賞！

エフピコは5年ぶりに『NIKKEI 社歌コンテスト』に応募し、最優秀賞である大賞を受賞しました。社歌プロジェクトメンバー24名が考えたテーマは「想いは、届く」。全拠点で歌い上げられた社歌には、社員一人ひとりの想い、会社の理念や未来へのビジョンが込められています。社歌の動画撮影には2,300名以上のグループ社員とその家族が参加。その歌声と感動が一つに響き合い、応募総数117件の中から「NIKKEI 社歌大賞」と審査員賞の「弓狩匡純賞」を受賞するという結果に繋がりました。

NIKKEI 社歌コンテストとは

日本経済新聞社が主催する社歌動画No.1決定戦。

開催目的：企業・団体の社内外コミュニケーション活性化

社歌の定義：単体企業の正式な社歌はもちろん、企業の非公式ソング・部署や支店単位の応援歌・商店街や連合企業のイメージソング・学校や自治体のテーマソング等あらゆる経済活動に関わる方々の思いが詰まった楽曲

審査基準：

1. 社員（メンバー）の楽曲への愛を感じるか？
2. 会社（団体）としてのメッセージが伝わるか？
3. 心に響く音楽であるか？
4. 企業に限らずあらゆる団体の経済活動を鼓舞しているか？



団結力を醸成したグループ各社での社歌コンテスト応募動画撮影

撮影のために歌と振り付けを覚えるという、おそらくほとんどの社員が初めてとなる経験でしたが、それはやがて戸惑いから楽しさへと変わっていきました。歌声が一つになって喜びとして輝く様子をプロジェクトメンバーは全国各地で実感しました。



エフピコグループ社歌 エフピコ発 ～わたしたちの願い～

福山発未来へ 夢と伝統を乗せて
静かに確かに歩むんだ 思いやりと優しさを持ち
エフピコ発世界へ Tray に愛を乗せて
この世にない花を咲かそう みんなの心は一つ

この美しい星に生まれ 生きる喜び分かち合いたい
明日への架け橋になろう
エフピコ エフピコ わたしたちの願い

広島発平和へ 歴史と涙をのせて
みんな助け合い生きるんだ 勇気ある先人のように
エフピコ発自分へ 人生に想い込めて
苦しい時にも耐え忍び 情熱をこの胸に

この美しい星に生まれ 生きる喜び分かち合いたい
明日への架け橋になろう
エフピコ エフピコ わたしたちの願い

明日への架け橋になろう
エフピコ エフピコ わたしたちの願い



2025決勝戦での歓喜とプロジェクトメンバーの声

各々が目標に向かって進む時、その活動へのエンゲージメントの度合いが強ければ強いほど、達成した際の感動や幸福感は大きくなります。この成功体験の一つひとつがエフビコの団結力を生み出しています。NIKKEI社歌コンテスト2025も社員を成長させる、そんな成功体験のひとつとなりました。

社歌プロジェクトは社員主導で全国をキャラバンし、グループの一体感や社員の成長が感じられるものになりました。挑戦してよかったと心から思います。



決勝戦ではプロジェクトメンバーがステージ上でプレゼンテーションを実施。

動画撮影の際は本社だけでなく営業所からも社員が駆け付け、終始笑顔が溢れるほどの盛り上がりを見せました。

どこの職場でも皆が合唱動画の撮影を楽しみ、想像していたよりも遥かに盛り上がりました。

大賞が発表された瞬間は、感動で心が震えました。エフビコグループの想いを届ける一員になれたことを心から誇りに思います。

部署や営業所ごとに配信をみんなで視聴していて、大賞が発表された瞬間には歓声が上がりました。今回の取り組みを通じて、社内一体感が生まれた実感があります。

社歌プロジェクトを通じて、勤務地や職種は異なるものの同じグループでともに頑張っている仲間の存在を改めて実感することができました。



プロジェクトの活動すべてを社員に任せたグループ代表の佐藤の喜びもひとしおでした。

チャレンジって素晴らしい！
そんな思いをまた新たにしました。

社歌コンテスト2025大賞までの道のり

2023.11

エフビコグループ各社から選抜された24名により社歌コンテスト応募プロジェクトが開始し、定期的に打合せを開催

2024.5

プロジェクトの定例打合せで、全国のグループ会社を巡る撮影と、1,000人超の社員・家族による社歌合唱を決定

2024.7-9

グループ拠点での動画撮影を実施



2024.9.7

福山市の「エフピコアリーナ」でグループ社員とその家族約1,300人による大合唱・感謝祭を敢行し、その様子を撮影

2025.1.14

動画への投票と審査を経て、決勝進出の12社・団体に選出



2025.2.27

決勝戦でのプレゼンテーションを経て、最高位の大賞を受賞！

メイキング動画はこちら



コンテスト審査員の方からいただいたメッセージ

社歌大賞の受賞おめでとうございます。また、審査員賞である「弓狩匡純賞」にも選ばせていただきました。

応募総数117社・団体の中から頂点に立ったエフビコ様のグループ社歌は、大賞に相応しい“風格”を備えていました。また作家として採点に重きを置く歌詞についても、リサイクルにも積極的に取り組む御社の、地域社会との連携を重視しつつサステナブルな問題解決を試みる姿勢が如実に表れ、“理念”が物の見事に体现されています。

また、2019年の第1回コンテストの無念の思いから雌伏5年。満を持して制作した動画には2,300人を超えるグループ社員とその家族の方々が集まり、1,000人からなる壮大な合唱を披露。審査員からも感嘆の声が上がりました。

社歌プロジェクトメンバーの皆様、お疲れ様でした。皆様の想いは、しっかりと届きました。そして「社歌」を尊ぶ他社・他団体の手本として、これからも末永く歌い継がれていくことでしょう。審査員を代表して心よりお祝い、御礼申し上げます。

作家・ジャーナリスト
弓狩匡純





サステナビリティ

環境における取り組み

環境方針	49
TCFD 提言に基づく情報開示と推進体制	49
指標と目標	50
エフピコ・エコアクション 2.0	51
環境に関わる外部評価	52
エフピコ方式リサイクル	53
エフピコ環境基金	55

社会における取り組み

インクルージョンの推進	57
障がいのある人材のキャリア形成促進	58
社員のエンゲージメント向上	59
人材育成方針	61
コミュニティへの参画	62
健康経営	63

ガバナンスにおける取り組み

基本的な考え方	65
ガバナンス体制	65
コンプライアンス	66
リスクマネジメント	66
株主との関わり	66

事業の発展により推進される エフピコ流のサステナビリティ

エフピコが目指す未来は、事業の発展を通じた、持続可能な社会の実現です。
リサイクルの強化や環境に配慮した容器の開発、多様な人材が活躍できる職場づくり、
環境活動団体への支援など、社会課題の解決に取り組みながら、
企業の健全な成長とより良い未来の創造を両立させます。

“ 食品トレー・容器の進化と共に、
エフピコは持続可能な未来を創ります ”



環境における取り組み

エフピコは、リサイクルの推進やCO₂削減、資源循環型社会の実現に向けた取り組みを通じて、持続可能な未来の創造に貢献しています。

環境方針

基本理念

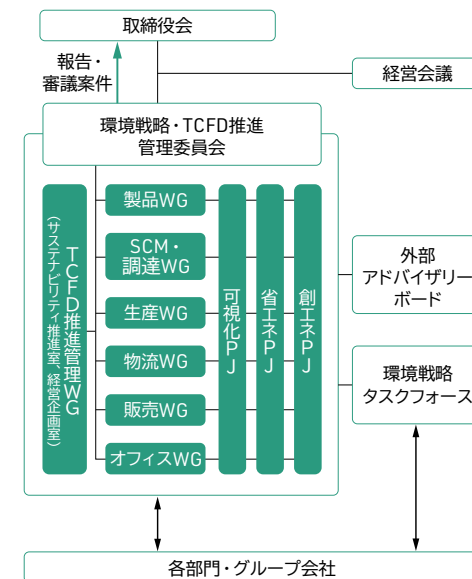
当社は地球環境の保全及び保護が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし事業活動を推進する。

- CO₂削減、天然資源の有効活用の立場から、当社の事業活動、製品及びサービスの省資源化を徹底すると共に、一般家庭から排出される使用済み食品容器を食品容器に再生利用する「エフピコ方式リサイクル」を積極的に拡大し推進する。
- 当社に対する法的要求事項等を順守すると共に、ステークホルダーのニーズや期待を理解し、運用に際しては自主基準を定め、汚染の予防を行う。
- 環境に影響を与える活動・製品・サービスを考慮した環境目標を定め、管理計画を立案、推進する環境マネジメントシステムを構築すると共に、内部監査やトップマネジメントによる見直しを通じて評価し、継続的改善を行う。
- 効率的な水の利用により、水資源の使用量削減を推進する。
- 化学物質や廃棄物などによる自然環境の汚染と健康被害につながる環境リスクを予防する。
- 生物多様性に配慮する取り組みを推進し環境保全を行う。
- 本指針に従業員をはじめとするステークホルダーに広く公開し、自ら進んで環境問題に取り組む人材を育成する。
- ステークホルダーとの対話に基づいた取り組みを行うとともに、適切な情報開示を積極的に行う。

TCFD提言に基づく情報開示と推進体制

エフピコグループでは、2022年3月、気候関連財務タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明し、気候変動をはじめとする環境課題解決に向け目標を掲げて、以下のプロセスを通じて対策を推進し取締役会による監督体制を構築しております。

- 部門横断組織である「環境戦略・TCFD推進管理委員会」が、グループ全体の環境戦略やTCFD推進について議論し、方針・戦略を立案します。「環境戦略・TCFD推進管理委員会」の運営にあたっては、社長直轄の環境に関する専門組織であるサステナビリティ推進室が事務局を担います。
- グループ全体の環境戦略のもと、製品、SCM・調達、生産、物流、販売、オフィスの各部門に設置したWG（ワーキンググループ）が自主目標を立て、気候関連課題をはじめとする環境課題の解決に向けた取組みを実施いたします。
- 各WGは、四半期に一度、取組みの進捗状況を「環境戦略・TCFD推進管理委員会」に報告します。
- 「環境戦略・TCFD推進管理委員会」は、方針・戦略及び取組みの進捗状況について、毎年取締役会へ報告します。
- 取締役会は「環境戦略・TCFD推進管理委員会」からの報告を受け、様々な視点・知見をふまえモニタリングを行います。



詳細はこちら



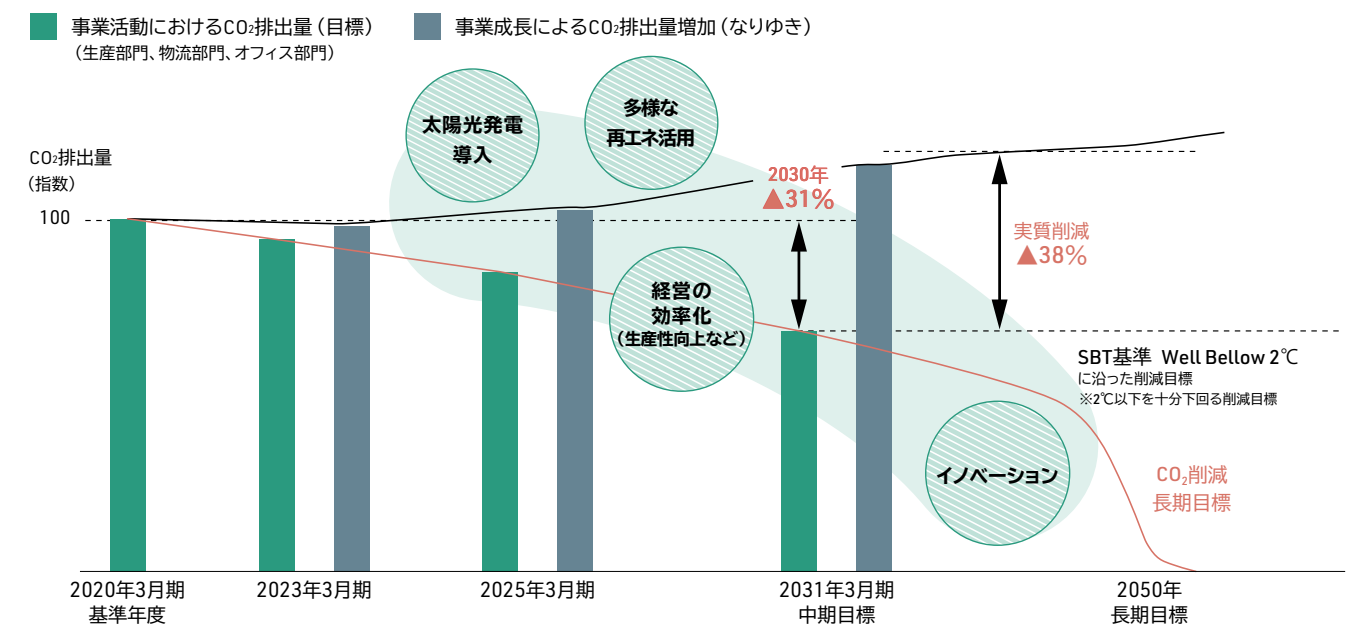
指標と目標

地球温暖化による気候変動というグローバルな課題に対し、エフピコグループは、【2031年3月期までにCO₂排出量（Scope1.2[※]）31%削減】及び【2050年度までにCO₂排出量（Scope1.2）の実質ゼロ】を目指します。

エフピコグループ 中・長期環境目標

- 事業活動全体におけるCO₂排出量（Scope1.2）を2031年3月期までに2020年3月期比31%削減します。
- エコ製品（エコトレー、エコAPET、エコOPET）によるCO₂排出削減量を2031年3月期までに27.2万tに増やします。（2020年3月期比170%増）
- 事業活動全体におけるCO₂排出量（Scope1.2）の実質ゼロを2050年度までに目指します。

温室効果ガス（Scope1.2）削減ロードマップ

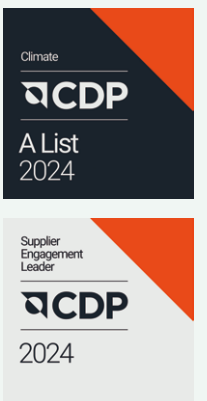


※Scope1は、事業者自らによる温室効果ガスの直接排出。Scope2は、他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出。

CDP気候変動分野で2年連続「Aリスト企業」に選定

気候変動対応の先進企業として、国際的評価を獲得

CDPは温室効果ガス削減や水・森林資源の保全に向けた企業の取り組みを評価・スコア化する国際的な非営利団体であり、詳細かつ独立した手法で企業をスコアリングし、AからD-のスコアを付与しています。CDPを通じてデータ開示する企業数は、2024年には世界で24,800社を超えています。エフピコは気候変動に対する先進的な取り組みと透明性の高い情報開示などが評価され、2024年も最高評価の「Aリスト企業」に2年連続して選定されました。あわせて、「サプライヤーエンゲージメント評価」においても、最高評価の「サプライヤーエンゲージメント・リーダー」に2年連続で選定されました。今後も気候変動対策に向けた様々な取り組みを推進するとともに、持続可能な循環型社会の構築を目指してまいります。

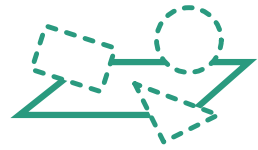


エフピコ・エコアクション2.0

[詳細はこちら](#)


P49に示した推進体制の各WGにおいて、エフピコグループ中・長期環境目標の達成に向けた取り組みの策定を準備しています。

製品WG


1.5% ↓

2031年3月期までに製品1枚当たりの重量を2021年3月期比で1.5%削減

SCM・調達WG


30% ↑

PSP製品のエコ化率を80%（2036年3月期）へ高めるために、調達するポリスチレン素材の再生材割合を30%高める

生産WG


85% ↓

生産活動における製品一枚あたりのCO₂原単位を2008年3月期比で85%に削減

物流WG



2020年
3月期比

2031年3月期

20% ↓

2036年3月期

24% ↓

物流活動における1ケース当たりのCO₂排出量（kg-CO₂/ケース）を削減

販売WG


60% ↑

PSP汎用容器に占めるエコトレー割合を60%に高める


100% ↑

APET製品に占めるエコAPETの割合を100%に高め、維持する

オフィスWG


15% ↓

営業車両のCO₂削減を15%削減する


7% ↓

床面積当たりの電力使用量を7%削減


10% ↓

人数あたりの廃棄物排出量を10%削減


5% ↓

紙使用量を5%削減


60% ↑

グリーン購入率を60%に向上

環境に関わる外部評価

「エコ・ファーストの約束」を更新

「エコ・ファースト制度」は、企業が自主的かつ先進的な環境保全への取り組みを環境大臣に約束し、その内容を公表・実践する制度です。環境省により「エコ・ファースト企業」として認定された企業には、業界を牽引する存在として、継続的に高い環境目標を追求する姿勢が求められます。

エフピコグループは2011年に環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を交わし、グループ一丸となって環境への先進的な取り組みを続けてきました。そして2024年6月にこの約束を改めて更新し、より一層の環境対策に向けた姿勢を新たに表明して、エフピコ方式リサイクル「トレーtoトレー」、「ボトルto透明容器」を柱にした事業活動により、循環型社会の実現による持続可能な社会の構築を目指しています。

エコ・ファーストの約束

- 2050年カーボンニュートラルの達成に向け、再生可能エネルギーの導入や省エネの推進など、事業活動全体でのGHG排出量削減に取り組みます。
- 容器包装のリデュース、リサイクルによる循環型社会の実現に向けた取り組みを積極的に推進します。
- ステークホルダーに対する環境学習の提供等について積極的に役割を果たします。

これらの取り組みの進捗状況は、環境省への報告に加え、エフピコレポートや公式ウェブサイトにて公表し、今後も透明性と継続的な改善に努めてまいります。

生物多様性保全への貢献 —「30by30アライアンス」への参加

エフピコは、2030年までに日本の陸域および海域の30%を生物多様性の保全に充てることを目指す国際的な取り組み「30by30目標」に賛同し、環境省が推進する「30by30アライアンス」に参加しています。本アライアンスは、既存の保護地域に加え、民間などが主体となって保全してきた地域をOECM（保全に資するその他の効果的な手段）として認定・拡充していくものです。

エフピコはこの取り組みに対し「エフピコ環境基金」を通じて、国内の川や海、里山、森林の保全・育成・研究・環境教育を支援し、生物多様性の保全に貢献しています。

「エコマークアワード2024 優秀賞」受賞

エコマークアワードは、「エコマーク」を通じて環境配慮型商品の普及や持続可能な社会づくりに貢献した企業・団体・個人を表彰する制度です。

1991年にエコトレーのエコマーク認定を取得したエフピコは、「エコマークアワード2010 金賞」続き、「エコマークアワード2024 優秀賞」を受賞しました。店舗で使用・販売した食品容器を回収し、再生後に再び同じ店舗で活用する「ストア to ストア」の浸透を目指し、スーパーマーケット様と協働宣言を行うとともに売場でのプロモーションを提案。地域の店舗を拠点に、地上資源の循環が一層強化されたことが評価され、今回の受賞に至りました。


[詳細はこちら](#)

[詳細はこちら](#)

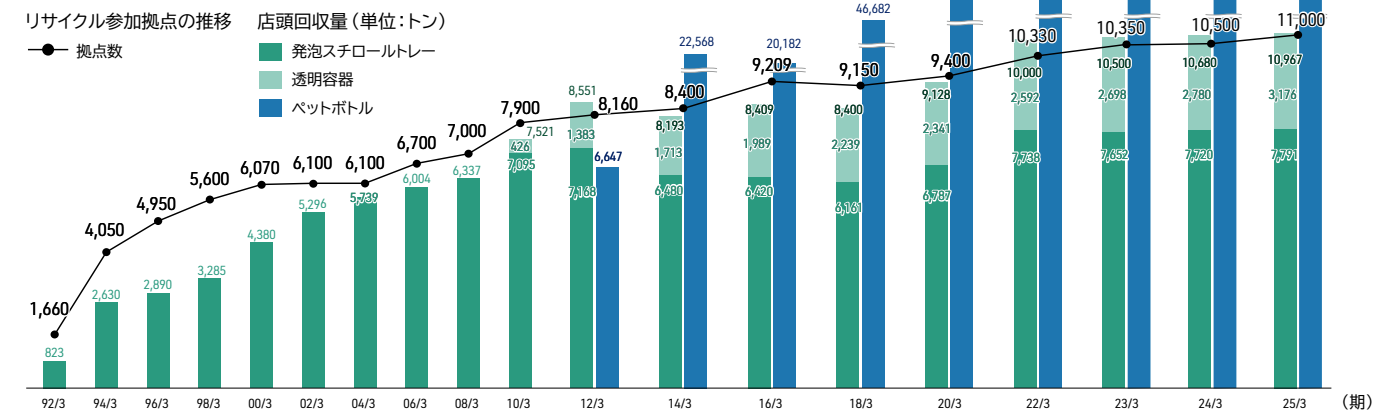

エフピコ方式リサイクル

エフピコは1990年に開始以降、消費者の皆様、スーパーマーケット様、包材問屋様、エフピコの4者一体となったエフピコ方式リサイクルを順次拡大させてきました。

1990年に6店舗でスタートした使用済み食品トレーの回収拠点は、現在約11,000拠点にまで拡大しています。2008年には透明容器、2011年からは使用済みのペットボトルを透明容器にリサイクルする事業もスタートし、リサイクルの輪を拡大させ続けてきました。今後もストアtoストアの取り組みなどにより「エフピコ方式リサイクル」を進化・深化させていくための施策を講じていきます。



回収拠点と回収量の推移



エフピコ方式リサイクルの成果

使用済み容器のリサイクルは、バージン素材を製造するための石油（地下資源）を使わず、“地上資源”である使用済み容器を利用することでCO₂削減において大きな効果があります。その他にも、ごみ処理のための経費が削減されるなどの社会的効果も生み出しています。

	発泡トレー		透明容器		ペットボトル	
	回収量	枚数	回収量	枚数	回収量	本数
2025年3月期(2024年度)	7,791t	19億4775万枚	3,176t	3億1760万枚	79,000t	31億6000万本
累計(1990年～2025年3月)	190,329t	475億8225万枚	32,569t	32億5690t	698,789t	273億1732万本

※発泡トレー: 4g/枚、透明容器: 10g/枚、ペットボトル: 25g/本で計算(2016年度より変更。それ以前は30g/本で計算)

2025年3月期(2024年度)に削減したCO₂の量 **約20.9万トン**

工場見学の受け入れ

リサイクル工場と選別センターにおいて工場見学の受け入れを行っています。近隣の小学校及び全国からの各種消費者団体、マスメディア各社、自治体などの方々にお越しいただき、2023年10月に見学者は累計50万人を突破しました。今後も工場見学を通じて、リサイクルの取り組みについてご説明するとともに、ご協力への感謝の気持ちをお伝えしてまいります。

工場見学の申し込み受付

見学受付日時: 月～金(祝日を除く) 9:00～16:30 (一部施設を除く) ホームページからお申込みいただけます。

▶詳細はHP (<https://www.fpco.jp/esg/environmenteffort/factory.html>) をご覧ください。

詳細はこちら



<全国の選別センターとリサイクル工場拠点>

- | | | |
|---------------------|-------------------------|-------------------------------|
| 1 北海道選別センター(北海道石狩市) | 14 福山リサイクル工場 | 福山リサイクルセンター
(広島県福山市) |
| 2 山形選別センター(山形県寒河江市) | 15 福山選別センター | |
| 3 関東リサイクル工場 | 関東リサイクルセンター
(茨城県結城郡) | 16 西日本ペットボトルリサイクル(株)(北九州市若松区) |
| 4 関東PETリサイクル工場 | | 17 九州選別センター(佐賀県神埼市) |
| 5 茨城選別センター | | |
| 6 東海選別センター(静岡県駿東郡) | | |
| 7 松本選別センター(長野県松本市) | | |
| 8 中部リサイクル工場 | 中部リサイクルセンター
(岐阜県安八郡) | |
| 9 中部PETリサイクル工場 | | |
| 10 岐阜選別センター | | |
| 11 金沢選別センター(石川県金沢市) | | |
| 12 西宮選別センター(兵庫県西宮市) | | |
| 13 関西選別センター(兵庫県小野市) | | |

<凡例>

- 選別センター
- リサイクル工場
- PETリサイクル工場



進化する選別システム

各地の選別センターに 新システムを順次導入

エフピコは使用済み食品容器の選別システムにおける業務の効率化を推進しています。関西選別センターでは、回収された透明容器を視覚的に識別できるように、PET、OPS(二軸延伸ポリスチレン)、PP(ポリプロピレン)をそれぞれ緑・黄・赤に色分けして表示するシステムを導入しました。これにより、処理量は従来の3倍と大幅に向上しています。



関西選別センター(2024年11月竣工)

エフピコ環境基金

創設6年目を迎える「エフピコ環境基金」では、気候変動及び海洋プラスチックごみ問題をはじめとする環境問題に対して様々な角度から活動する団体へ助成しています。さらに、助成先団体が実施するプログラムにエフピコグループ社員も積極的に参加し、研鑽を深めています。



環境問題の現場に関わり、ステークホルダーとの輪を広げる

エフピコ環境基金の助成先団体は野山や海で活動する「こが里山を守る会」、「神奈川海難救助隊」など様々な環境をその活動のフィールドとしています。

河川敷でゴミ拾いをしながら環境問題を学ぶ活動を行っている「荒川クリーンエイド・フォーラム」は30年以上の歴史を持つ団体で、その活動には自治体や企業、市民が参加し、ごみの削減や環境保全に取り組んでいます。

こうした助成先の活動に多くのエフピコの社員も参加し、現場での実践を通じて環境問題に向き合っています。参加した社員の「ペットボトルの多さに驚いた」「想像以上に様々な種類のごみがある」「今後は海洋清掃や森の清掃にも関心を持ちたい」という声が見え、環境問題を肌で感じる貴重な機会です。

環境基金を通じた支援が、社員の意識改革や新たなアクション、そして人の輪づくりに繋がっています。

参加社員のコメント



リサイクル推進部
竹下 耕司
部署から資源ごみやリサイクルに興味があり参加しました。達成感もあるので、多くの社員にぜひ参加してほしいです。



人事部人材開発課
小浜 知貴
初めて参加したのですが、ごみの多さに驚きました。実際に現場を見てその深刻さを実感。今後も関心を持ち続けたいです。



経営企画室 IR広報課
前 昂佑
捨てる際に正しく分別すれば、減らせるごみも多いはず。川や自然を守るためにも、適切な処理を心がけたいと思いました。

エフピコ環境基金が広げる環境保護活動の輪

エフピコの支援がもたらす環境意識の向上と持続可能な活動の拡大

エフピコ環境基金の支援によりゴミ拾い活動の幅が広がりました。金銭的な支援にとどまらず、エフピコ様と共に活動することで多くの方が環境問題に関心を持つきっかけとなっています。ごみ問題の解決には、日常生活や仕事の中で地球環境を意識することが重要ですが、根本的な問題解消には行政との連携も欠かせません。私たちはその橋渡し役を担いながら、イベントの新鮮さを保ちつつ継続的に参加できる仕組みを整える必要があります。そのためにも、エフピコ様のネットワークや取り組みと連携し、認知の拡大と情報発信を強化しながら、より多くの人と協力して活動の輪を広げていきたいと考えています。



特定非営利活動法人
荒川クリーンエイド・フォーラム
山地 佳奈さん

第5回（2024年度）の助成先団体と活動

みんなで環境問題について考え、行動を促していくための“人の輪づくり”を行っています。



詳細はこちら

環境保全活動



特定非営利活動法人
こが里山を守る会
里山保全整備・市民子ども参加の里山体験活動事業



特定非営利活動法人
荒川クリーンエイド・フォーラム
大阪・関西万博を契機としたごみゼロ共創ネットワークの伴走支援



NPO法人
湘南クリーンエイドフォーラム
～拾って調べて繋げる活動～ 調べるビーチクリーンの普及プロジェクト



認定特定非営利活動法人
神奈川海難救助隊
海ごみ削減「急務マイクロプラスチックになる前に海上パトロール時の回収」活動



特定非営利活動法人
河北潟湖沼研究所
ごみ拾いで河北潟流域めぐり



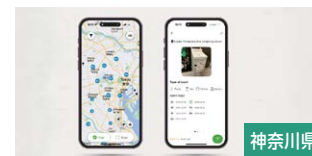
瀬戸内海宇治島クラブ
宇治島サニーアイランド・クリーン作戦



特定非営利活動法人
ジョイライフさやま
水辺周辺整備清掃と環境保全の大切さを伝える自然体験



次世代のためにがんばろう会
不知火海保全に関する一斉行動と中・高校生における地域間交流プログラム



NPO法人 Gomi-Map
「ごみマップ」最寄りのリサイクルスポットを表示するモバイルアプリ

環境教育・研究



公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
みやぎのSDGs環境学習支援～課題解決に向けて行動しようとする児童・生徒の育成～



特定非営利活動法人
とす市民活動ネットワーク
緑豊かな森林を守るための次世代・消費者への木育推進事業



特定非営利活動法人
草木谷を守る会
子ども道産調「リキノスケ未来塾」



一般社団法人
Rondat
子どもたちと考える里山環境問題



特定非営利活動法人
チャウス
わたらせ川の環境保全・保護活動



特定非営利活動法人
棚田 LOVERS
大阪体育大学と連携し、子どもたちとの体験型環境教育で自然環境を大切にすることを育む



特定非営利活動法人
吉里吉里国
自然環境教育～吉里吉里の森と共に生きる人材の育成～

「食」課題解決・「食」支援に関わる活動



一般社団法人
フードバンクいのまき
フードバンク食品ロス削減推進の拠点整備事業

社会における取り組み

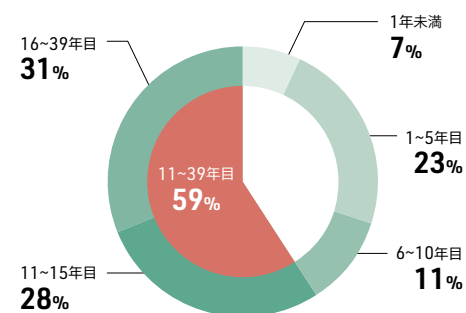
エフピコは、環境教育やリサイクル活動、地域社会支援、障がい者雇用推進などを通じて、社会との共生と持続可能な発展に取り組んでいます。

インクルージョンの推進

障がいのある人材の活躍

エフピコが障がいのある人材の雇用を本格的に開始したのは1986年。それ以来、業務の幅と規模を広げ、現在ではエフピコダックス株式会社とエフピコ愛パック株式会社を中心に、約400名の障がいのある人材が現場で活躍しています。担当する業務は、付加価値の高い小ロット製品の製造や、使用済み食品トレー・容器のリサイクル工程での手選別作業など、多くの集中力や繊細さを要するもの。これらの現場では、障がいのある人材の能力が存分に発揮され、エフピコのものづくりを支えています。

勤続年数内訳（2025年3月時点）



障がいのある社員数		401名
内訳	身体障がい	36名（うち重度14名）
	知的障がい	352名（うち重度 ^(注1) 262名）
	精神障がい	13名
雇用率換算数 ^(注2)		676名
障がい者雇用率		12.6%

（注1）職業判定上の重度を含む
（注2）重度障がいのある人を2、短時間労働者を0.5と換算した人数

エフピコダックス株式会社（特例子会社）

容器成形 / 回収容器選別

エフピコの特例子会社として厚生労働大臣より認定を受け、障がい者が健常者と助け合いながら働ける場を提供。一人ひとりの可能性を引き出し、その能力を戦力として活かしています。

エフピコ愛パック株式会社（就労継続支援A型事業）

容器組立 / 回収容器選別

社会福祉や環境問題に取り組んできたエフピコが、障がい者の就労機会拡大を目的に設立。営利法人として日本初の「就労継続支援A型事業所」に認定されています。

お取引様による障がいのある人材の雇用サポート

エフピコでは39年にわたり培ってきた障がいのある人材活用のノウハウを、お取引様の障がい者雇用に役立てていただく活動も行っています。エフピコのサポートにより、55事業所770名の障がいのある人材の雇用が新たに生まれ（2025年3月現在）、それぞれの職場で欠かせない戦力となっています。

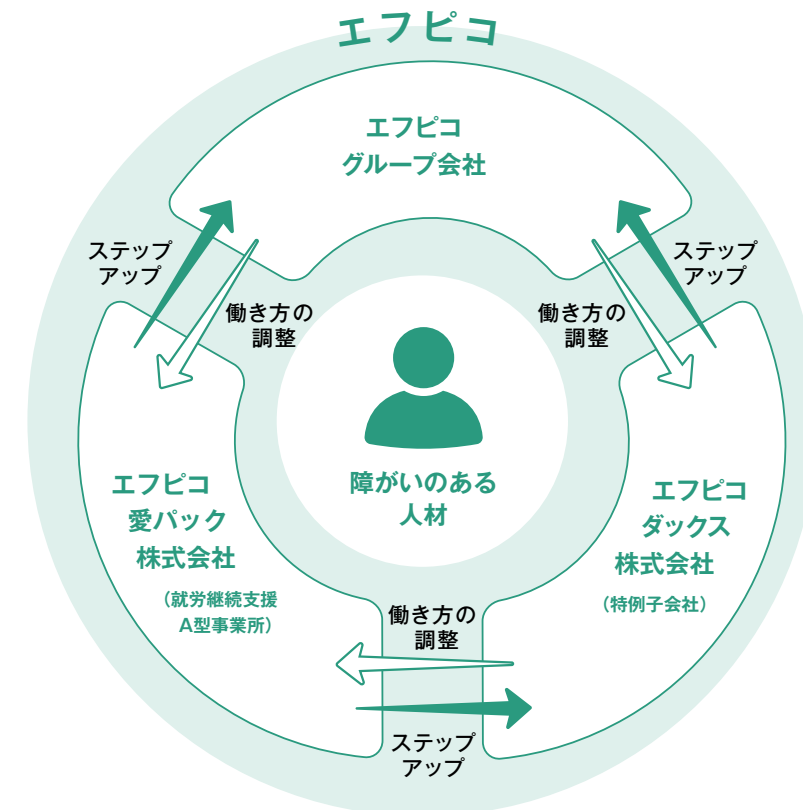
フロアホッケーを通じたインクルージョンの推進

エフピコグループは2010年からユニバーサルスポーツであるフロアホッケー活動を推進し、障がいの有無を超えた交流を深めています。また、全日本フロアホッケー競技大会や西日本大会のメインスポンサーを務め、社員がボランティアとして大会運営を支えるなどインクルージョンの輪を広げています。



障がいのある人材のキャリア形成促進

エフピコは、障がいのある人材が自分らしく働き続けられるよう、キャリア形成の環境づくりに取り組んでいます。エフピコダックス株式会社やエフピコ愛パック株式会社から、エフピコグループの他の会社での一般就労へのステップアップなど、多様なキャリア形成機会があり、一人ひとりの状況に応じた働き方を可能にすることを通じて、誰もがキャリア形成して活躍し続けられる企業グループを目指しています。



キャリア形成事例

エフピコダックス（株） → エフピコグループ会社（製造部門）

倉田 庸平

2010年：エフピコダックス（株） 福山選別工場入社
2023年：（株）エフピコ福山 福山リサイクル工場出向
2025年：（株）エフピコ福山 福山リサイクル工場移籍

支えとともに挑んだ、キャリアステップアップ

キャリアステップアップは、生活環境の変化などもあり不安がありましたが、「困難な時は戻ってきていいんだよ」という言葉に支えられて決断できました。今はお金を稼ぎながら、甥と姪にプレゼントを買ったり一緒に旅行をすることを楽しみにしています。さらに、次のステップも目指して挑戦を続けています！



使用済みペットボトルのリサイクル作業（減容機への投入・結束）

エフピコ愛パック（株） → エフピコグループ会社（製造部門）

棚橋 義鷹

2011年：エフピコ愛パック（株） 岐阜工場入社
2023年：（株）エフピコ中部 PW 工場移籍

不安を越えて一歩前へ、「信頼」が日々の励みに

勤務時間の変化などに不安もありましたが、挑戦したい気持ちで移籍を決意しました。現在は容器の検品作業を丁寧にこなし、「任せられる存在」として信頼されていることが励みになっています。休みの日にはサイクリングでリフレッシュして、仕事では製品を落とさずに安定した作業を目指して日々努力を続けています。



折箱タイプ容器製造（組立・検品）

社員のエンゲージメント向上

エフピコグループは、「世界人権宣言」や「労働における基本的原則及び権利に関するILO（国際労働機関）宣言」等の国際規範を支持しており、以下の方針に基づいて人権と個人を尊重した安全で働きやすい職場環境を実現します。

詳細はこちら



エフピコグループ人権方針

- 1 全ての人がお互いの個性と人権を尊重し、年齢・国籍・人種・信条・宗教・性別・性的指向・性自認・障がい・社会的身分や社内的地位などを理由に差別されることなく公正な扱いを受け、平等な機会を得る権利を有するという基本原則の下、「エフピコグループ行動憲章」「エフピココンプライアンス行動規範」に基づき全ての事業活動において、人権と個人を尊重し、良き企業市民として高い倫理観と社会的良識を持って行動し、全てのステークホルダーと健全かつ正常な関係を保ち、社会から信頼される企業グループとして持続的に企業価値を高めて参ります。
- 2 ハラスメントを禁止し、そのような言動を一切容認しません。ハラスメントの防止に係る体制の整備、発生したハラスメントへの的確な対応を行うことによりハラスメントの防止を図り、業務の円滑な運営と働きやすい職場環境を確保します。
- 3 法令及びその他の労働基準を遵守し、事業活動を行ういかなる場所でも、児童労働・強制労働を禁止します。
- 4 心身ともに健康で、安全かつ安心していきいきと働くことができる職場環境を整備するとともに、仕事と生活の調和のとれた働き方を推進します。
- 5 労働法令を遵守し、社員へ最低賃金以上の賃金を支払います。
- 6 労働者の団体権、団体交渉権等を企業として尊重すべき基本的人権の要素と考え、労働者の権利を妨げません。
- 7 事業活動を行う国・地域において適用される法令を遵守します。万一、当該国・地域の法規制と国際的な人権規範が相反する場合には、当該国・地域の法令の範囲内で、国際的な人権規範を尊重する方法を追求します。

人権方針に基づく取り組み



採用活動にあたっては、当該国・地域の法令を遵守します。採用時には年齢確認を徹底することで、児童労働の発生を防止します。また、強制労働防止のため、パスポートなど社員の重要書類の会社保管や移動の自由の制限は行いません。



エフピコグループは、法律で定められた最低賃金以上の支払いを遵守し、同一資格・同一職務レベルにおいて統一された報酬体系を適用しています。



エフピコグループの全社員に対して、毎年、法律の知識や職場相談窓口へ届いた実例、コミュニケーション技法に関するハラスメント防止研修を実施しています。さらに、管理職及び部下を持つ社員には、部下指導やフィードバック方法に関する講義を追加で実施し、一部にはグループワークを取り入れるなど研修内容を工夫しています。管理職及び部下を持つ社員は2,151名、一般社員3,047名、計5,198名が受講しました。（2025年3月時点）

働きがいのある職場環境の整備

エフピコグループは、社員が個々の力を発揮し、やりがいを持って働ける環境づくりを重視して職場環境の整備に取り組んでいます。

主な取り組み

制度・施策	内 容
スマイル休暇	労働時間の有効活用と心身のリフレッシュ等を図ることを目的に導入（原則、連続5日間の年次有給休暇取得）。
時間単位の年次有給休暇	通院や子どもの学校行事への参加、介護等の事情に応じて柔軟に取得できるよう最大年5日の時間単位の年次有給休暇制度を導入。
男性の育児休暇	男性社員が、子どもが1歳になるまでの間に連続5日間の休暇取得を義務化する制度を導入。併せて男性の育児休業の取得も促進。
育児時短勤務	小学校6年生まで育児短時間勤務を拡充。
時差出勤	8パターンの時差出勤を導入。
ノー残業デー	社員が仕事と生活の調和を図りつつ効率的な業務遂行を実現することを目的に、原則週2日のノー残業デーを実施。
テレワーク	出社との最適な組み合わせにより、生産性の維持・向上の実現を図ることを目的に導入。
レクリエーション費補助	社内旅行、忘新年会、歓送迎会など社員の親睦を深める行事に対して一定額の費用をサポート。

「日経スマートワーク」3星獲得



「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」3星を獲得！

エフピコは「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」において、人材活用と人材投資加速によるイノベーション創出、生産性向上、企業価値最大化を目指す先進企業として3星に認定されました。当社の最大の資産は「人材」とであるという認識のもと、企業グループ全体の価値向上を今後も目指していきます。



「エフピコ感謝祭2024」開催

社員とその家族で楽しんだ“エフピコらしさ”

2024年9月7日、社員とその家族への日頃の感謝を込めて「エフピコ感謝祭2024」を広島県福山市のエフピコアリーナふくやまで開催しました。家族も招待する大規模なイベントは初めての試みでしたが、当日は地元福山を中心に多くの来場者で賑わいました。

会場では家族で楽しめるゲームやクイズ大会、役員による屋台フードのふるまいなど多彩な企画が用意され、宵闇の秋祭りの雰囲気を出し、またこの日は感謝祭に先立ち、社歌コンテスト2025応募に向けた社員とその家族による大合唱の動画撮影も行われ、会場全体が一体感に包まれる“エフピコらしさ”に溢れた一日となりました。



人材育成方針

持続的な成長のために努力と挑戦を続けるエフピコグループの最大の資産は“人材”です。そのため、採用から教育、活用、そして退職に至るまで、一人ひとりが個性を発揮できるような「人づくり」の仕組みの強化に努めています。そうして、やりがいのある充実した職業人生の実現と組織の一層の活性化を推進し、企業グループ全体の価値向上を目指します。

詳細はこちら



<研修体系>

	OFF-JT		一般教育			自己啓発			
役職者	評価者トレーニング		ハラスメント防止研修 管理職向け	情報セキュリティ研修	健康セミナー	資格取得奨励制度 資格取得支援制度	社内通信教育受講支援制度	社外スクール 受講支援制度	英会話学習
管理職	新任マネージャー研修								
中堅	リーダー研修	海外研修	ハラスメント防止研修 管理職以外向け						
若手	スキルアップ研修	マンツーマン リーダー研修							
	ネクストステージ研修								
新入社員	新入社員研修	フォローアップ 研修							

多様な働き方を選べる65歳までの選択式定年延長

多様な働き方のニーズの下、社員は、定年年齢を60～65歳の中から選ぶことができます。65歳以前の定年退職を選択した場合でも、希望者は全員、再雇用社員（1年更新）として65歳まで働くことが可能です。また、本人と会社が希望する場合、65～70歳の再雇用（1年更新）も可能です。

女性の活躍を推進



（株）エフピコ中部
海津 妃果莉
2018年入社、中部エコペット
工場配属。オペレーターとして
APET 製造ラインを管理。

ものづくりの現場を支える女性オペレーターの活躍

エフピコの生産工場では、検品・梱包を担うチェッカーと、生産ラインを管理するオペレーターが現場を支えています。近年、自動化設備の導入に伴い、中部工場・中部エコペット工場から女性オペレーターの活躍が広がっています。

オペレーターは熟練度によって帽子の帯色が黄、緑、青、赤と色分けがされていますが、2018年入社の海津妃果莉は3年前に「緑帽子」となり、機械操作や製品管理を担当するようになりました。オペレーターになった当初を「いろいろ挑戦したいと思いましたが、最初は限られた作業しかできず、焦りを感じました。でも、経験を積むうちに機械のトラブル対応もできるようになり自信ができました」と振り返ります。後輩の指導にも力を注ぐ現在は、「女性オペレーターが増え、男女問わず活躍できる環境が整ってきた」と実感しています。

エフピコは、女性オペレーターが次世代のリーダーとして活躍する未来を見据え、より多くの人やりがいを感じられる職場を目指していきます。



支え合い、高め合う。エフピコの女性
オペレーターが職場の未来をつくります。

コミュニティへの参画

エフピコはコミュニティの一員として事業所がある地域の方々との共生を目指しています。2024年度は、スーパーマーケット様をはじめとするステークホルダーと環境イベントを開催するとともに、展示会への参加や、団体・教育機関向けの出前授業などを実施しました。

2024年度の主な参加イベント

5月	・ごみゼロ(530)作戦(大阪府) ・クリーンビーチPJ(静岡県) ・湘南クリーンエイドフォーラム・地引網(神奈川県) ・Rondat・農業活動(京都府) ・神奈川海難救助隊・東京湾浮遊ごみ回収(神奈川県) ・こが里山を守る会(茨城県) ・ユーザー様 環境イベント(東京都・山梨県) ・棚田LOVERS(兵庫県)	・小学校でのユーザー様とのコラボ出前授業(静岡県・愛知県) ・ユーザー様 環境イベント(長野県)
6月	・クリーンビーチPJ(静岡県) ・八王子フェスティバル(東京都) ・那珂市環境イベント(茨城県) ・津山市エコフェスタ×マルイ(岡山県) ・福山市環境イベント(広島県) ・湘南クリーンエイドフォーラム(神奈川県) ・神奈川海難救助隊・東京湾浮遊ごみ回収(神奈川県) ・小学校でのユーザー様とのコラボ出前授業(青森県・岩手県) ・ユーザー様 環境イベント(東京都・静岡県・福岡・埼玉・茨城) ・こが里山を守る会(茨城県)	・CODモシゴトタイケンFUNフェスティバル2024(広島県) ・じばさんフェア2024(広島県) ・新宿3R推進環境イベント(東京都) ・新宿3R 早稲田大学授業(東京都)
7月	・エコテック2024(福岡県) ・世田谷2R環境イベント(東京都・in東京農大) ・小学校でのユーザー様とのコラボ出前授業(秋田県・岩手県) ・ユーザー様 環境イベント(東京都・静岡県・福岡県・埼玉県・神奈川県・和歌山県) ・ジョイライフさやま(埼玉県)	・ユーザー様 環境イベント(東京都・佐賀県) ・小学校でのユーザー様との出前授業(青森県)
8月	・オンライン工場見学 ・小学校でのユーザー様とのコラボ出前授業(愛媛県) ・ユーザー様 環境イベント(東京都・静岡県・神奈川県・三重県・広島県・山梨県・岐阜県) ・おおさかATC環境イベント(大阪府) ・ものづくり実演・体験フェア2024(広島県) ・学びのフェス2024夏(東京都)	・兵庫県ユースエコフォーラム(兵庫県) ・小学校でのユーザー様とのコラボ出前授業(東京都) ・ユーザー様 環境イベント(東京都・北海道) ・小学校でのユーザー様とのコラボ出前授業(青森県)
9月		・ユーザー様 環境イベント(東京都) ・こどもエコくらぶ全国フェスティバル2025(大阪府)

様々なステークホルダーに向けた環境意識の啓発



高千穂大学の経営学特別講座Bで開催した
(一社)全国スーパーマーケット協会寄附講座。



兵庫県内10市の市長を招いて関西工場の
工場見学を実施。



子どもたちに環境問題を「自分ごと」として
考えてもらうために行っている出前授業。

講演や出前授業などによる情報発信

エフピコは、持続可能な社会の実現に向けてリサイクルの重要性を広めるとともに、自社で実践する環境問題への取り組みの情報発信に力を入れています。マスコミや消費者団体、自治体の方々などによる工場見学の積極的な受け入れや教育機関での講演など、幅広く社会全般に向けた活動を実施。また、主に小学生を対象にした出前授業では、食品容器のリサイクルの仕組みを学ぶ機会を提供することで、子どもたちが環境問題を「自分ごと」として捉えるきっかけをつくっています。

健康経営

健康宣言

エフピコグループは、創業以来、「健康」を社訓の一つとしています。社員一人ひとりが、やりがいや充実感を持ちながら、イキイキと働くことができるよう、健康維持・増進活動を推進し、健康職場づくりを発展させています。

「職場で健康プロジェクト」の実施

「私の健康宣言カード」

毎年健康宣言カードをグループ社員に配付し、社員一人ひとりがその年の健康活動目標を記載して健康維持・増進活動を推進しています。

身体と心の健康診断

定期健康診断の受診率は100%、ストレスチェックの受検率は96.3%（2025年3月期）。50人未満の事業所も含め全社員を対象に受検率向上に取り組んでいます。

産業医によるサポート・保健指導

50人未満の事業場を含むすべての事業場で産業医を選任し、安全衛生活動を推進。保健師による特定保健指導や健康診断結果のフォローを実施し、外部機関と連携して24時間365日対応の健康相談体制を整えています。

「健康セミナー」

社員の心身の健康について維持増進を図るために毎年「健康セミナー」を開催しています。2025年3期は睡眠、脳卒中、男女の健康、ながら運動などをテーマに計4回開催しました。

生活習慣改善への取り組み

生活習慣改善の推進のため、生活習慣調査を毎年実施しています。加えて、卒煙強化週間やPicoベジweek（野菜摂取週間）、カラダづくり測定会などを企画し、社員のセルフケアの推進を図っています。2025年3月期は、運動習慣の形成やコミュニケーションの促進を目的に、『エフピコグループ会社対抗ウォークラリー』を2回開催し、延べ2,799名が参加しました。

休職復職支援体制

円滑な職場復帰の実現を図るための支援内容及び体制についてのマニュアルを作成し、長期欠勤者の休職開始のフォローおよび復職フォローの体制を整えています。

健康情報の発信

社内イントラネットに「職場で健康プロジェクト」専用ページを設け、プロジェクトプログラムの情報発信をしています。また、毎月の『保健師だより』や「職場で健康プロジェクト」のメルマガ配信など、あらゆる機会を通じて健康情報を積極的に発信し、ヘルスリテラシーの向上を促進しています。

社員の健康を支える「保健師動画」シリーズ

エフピコでは、2024年度より社員の健康維持・増進を目的に、保健師動画シリーズ『Pico健康room』の配信を開始しました。社内の保健師がストレス対処や心の健康を保つ「セルフケア」、管理職向けの「ラインケア」など、健康に関する知識や職場でのメンタルヘルス対策を解説し、社員の健康管理意識向上をサポートしています。



保健師監修『Pico健康room』。
第一弾では、メンタルヘルスの「セルフケア」をテーマに公開しました。

健康経営優良法人2025



「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に4年連続認定されました

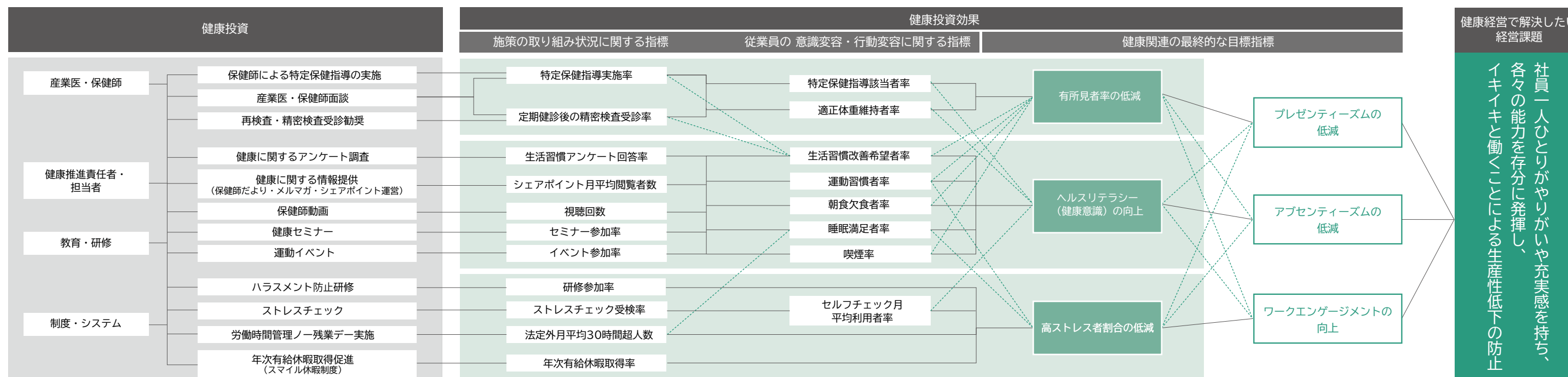
エフピコは社員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する企業として、4年連続して「健康経営優良法人（大規模法人部門）」の認定を受けました。平衡性や柔軟性などを測定する「カラダづくり測定会」をはじめとした様々な取り組みが評価されているものです。



カラダづくり測定会

エフピコグループ 健康経営戦略マップ

エフピコグループでは、健康経営戦略のストーリーを可視化し、効果的にPDCAサイクルを回すために「健康経営戦略マップ」を作成・運用しています。項目ごとに目標値を定め、各種取り組みを推進しています。



社員一人ひとりがやりがいや充実感を持ち、
各々の能力を存分に発揮し、
イキイキと働くことによる生産性低下の防止

ガバナンスにおける取り組み

エフピコでは、透明性の高いガバナンス体制のもとで、あらゆる意思決定を行っています。

また、持続的な成長と長期的な企業価値を向上させることを目指し、社内体制の整備に努めています。

基本的な考え方

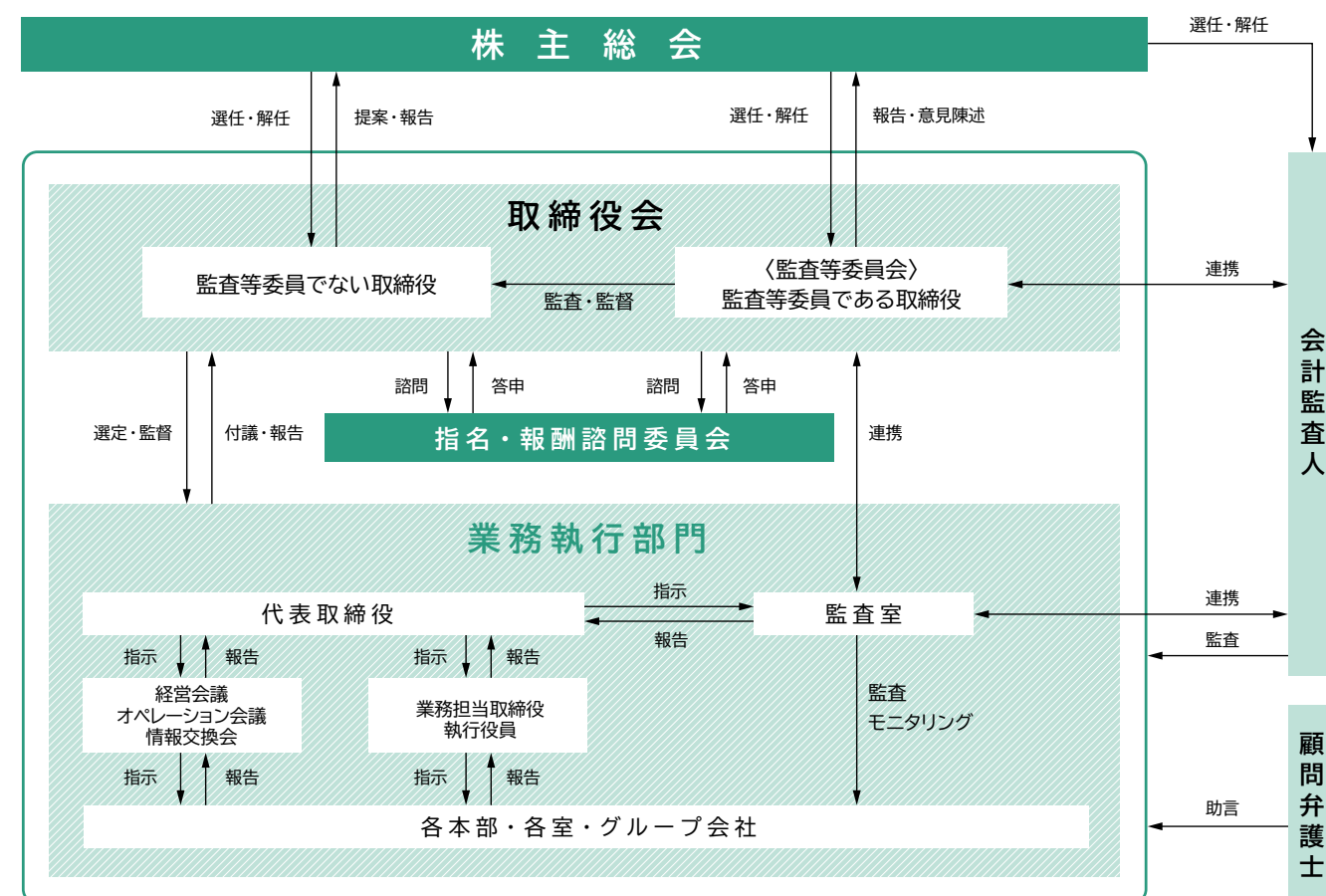
エフピコのコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方は、意思決定の透明性・公正性を確保し、保有する経営資源（人・物・金・情報）を有効に活用することです。さらにこれらを迅速かつ果断な意思決定により実行し、持続的な成長と長期的な企業価値を向上させることを目指しています。そのための基本方針として右の5つを掲げています。

- 1 株主の権利・平等性の確保
- 2 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
- 3 適切な情報開示と透明性の確保
- 4 取締役会等の責務
- 5 株主との対話

ガバナンス体制

経営の意思決定の迅速化と取締役の職務執行の監査・監督機能を強化することを目的として、監査等委員会設置会社を選択しています。独立社外取締役のみで構成される監査等委員会が経営監視の役割を担い、透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。

内部統制システムの概要を含むコーポレートガバナンス体制についての模式図



コンプライアンス

エフピコでは、企業倫理の確立と法令遵守を推進するため、社長直轄の「法務・コンプライアンス統括室」を設置。「エフピコグループ行動憲章」「エフピココンプライアンス行動規範」「行動羅針盤」を定め、健全な企業風土の醸成と社内規定の遵守徹底に取り組んでいます。

さらに、グループ全体のコンプライアンス強化のため、2年に1度の内部監査を実施してリスク管理や法令遵守の状況をモニタリング。必要に応じて改善を行う体制を整備しています。また、取締役会で内部通報件数・内容を報告し、半年ごとに行動憲章や行動規範の有効性を検証しています。



リスクマネジメント

エフピコグループは、「もっとも高品質で環境に配慮した製品」を「どこよりも競争力のある価格」で「必要な時に確実にお届けする」という基本3本柱を追及するために、リスクマネジメントの強化に努めています。

取締役会にて「リスク管理規程」を定め、グループ全体のリスクを適切に管理しています。生産・販売・物流に関する業務リスクは、取締役や執行役員、ジェネラルマネージャーが参加するオペレーション会議で議論。グループ会社を含むリスク管理については、情報交換会を開催し、取締役や執行役員、グループ会社の代表者が対応状況を共有しています。リスク管理の具体例は以下の通り。

リスクサーベイの実施

自然災害による被害の抑止や労働災害の未然防止を目的に、エフピコグループでは各生産・物流拠点でリスクサーベイを実施しています。外部専門家が事業所を訪問し、リスクの洗い出し、分析・評価を行い、必要な対策とその効果検証を通じて管理体制を強化しています。

自然災害への 備え

非常用備蓄品や72時間対応の非常用発電設備の整備、消火訓練、災害時優先電話の設置を実施しています。また、安否確認システムを導入し、定期的な訓練を通じて災害時の迅速な対応体制を強化しています。

製品安全の
リスクへの対応

製品安全の確保を最優先に、「FSSC22000」の認証を取得し、食品衛生法や各種規格への適合を徹底しています。また、PL制度（ポジティブリスト）にも対応しています。厳格な品質管理体制のもと、自社基準での検査や異物混入防止、トレーサビリティの強化を実施しています。

情報セキュリティに
関するリスク対応

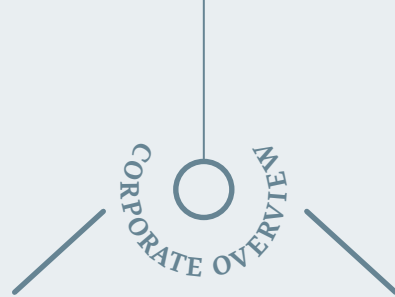
オフィスの入退場管理に加え、複合施設では車両のナンバープレートを利用したセキュリティゲートを設置。データ管理では定期的なバックアップ、非常時対応用の外部データセンター活用、回線の二重化やメール誤送信防止システム、PC廃棄の徹底などを実施しています。

株主とのかかわり

エフピコは、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に資するため、株主の皆さまとの建設的な対話を積極的におこない、株主の皆さまの意見や要望を経営に反映させていくことが重要と考えています。株主総会や年2回の決算説明会以外にも、個別ミーティングや施設見学会などを実施し、中長期的な経営戦略や事業内容をよりわかりやすく説明することにより、株主の皆さまとの信頼関係構築と適正な株価の形成を図っています。

また、常に適時・適正・迅速・公平な企業情報の開示に努めており、有価証券報告書・決算短信・決算説明会資料・プレスリリースなど、ホームページの「株主・投資家情報」で公開するなど、透明性の高い情報開示に努めております。





企業プロフィール

グループ会社・拠点一覧	68
人材データサマリー	69
財務サマリー（連結）	70
環境データサマリー	71
イニシアチブへの参画・社会的な評価	73
エフピコのあゆみ	75

会社概要

商号 株式会社エフピコ
設立 1962年（昭和37年）7月
代表者 代表取締役会長
兼 エフピコグループ代表 佐藤 守正
代表取締役社長 安田 和之
資本金 13,150百万円
社員数 988名（エフピコグループ：5,250名）
事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の
合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに
関連包装資材等の販売



ロゴに使用しているFPは創業当時の社名である「福山パール紙工」に由来しています。

エフピコグループの 製造・物流・販売・ リサイクルネットワーク

- 支店・営業所
- 生産工場
- リサイクル工場/
選別センター
- 配送センター /
ピッキングセンター

東京本社 （東京都新宿区）

東京本社
〒163-6036
東京都新宿区西新宿6-8-1
新宿オークタワー36F
TEL (03) 5320-0717

福山本社 （広島県福山市）

福山本社
〒721-8607
広島県福山市曙町1-13-15
TEL (084) 953-1145

グループ会社・拠点一覧

グループ会社

製造		物流	商社・販売・その他
株式会社エフピコ北海道	株式会社エフピコ笠岡	エフピコ物流株式会社	エフピコ商事株式会社
株式会社エフピコ山形	株式会社エフピコ福山	株式会社アイ・ロジック	エフピコチューバ株式会社
株式会社エフピコ茨城	株式会社エフピコ神辺	エフピコイーストロジ株式会社	エフピコダイヤファース株式会社
株式会社エフピコ八千代	株式会社エフピコ九州	エフピコウエストロジ株式会社	エフピコインターバック株式会社
株式会社エフピコ下館	エフピコダックス株式会社		エフピコシシダ株式会社
株式会社エフピコ筑西	エフピコ愛バック株式会社	関連会社	エフピコ上田株式会社
株式会社エフピコ富山	エフピコアルライト株式会社		株式会社アパックス
株式会社エフピコ中部	エフピコグラビア株式会社	FP Malaysia Sdn.Bhd.	
株式会社エフピコ兵庫	西日本ペットボトルリサイクル株式会社	Lee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.	

エフピコの拠点一覧

本社	生産工場	リサイクル工場 / 選別センター
福山本社（広島県福山市） 東京本社（東京都新宿区）	北海道工場（北海道石狩市） 山形工場（山形県寒河江市） 関東八千代工場（茨城県結城郡） 関東工場（茨城県結城郡） 関東エコペット工場（茨城県結城郡） 関東下館工場（茨城県筑西市） 筑西工場（茨城県筑西市） 関東つくば工場（茨城県下妻市） エフピコダックス（株）千葉工場（千葉県習志野市） 富山工場（富山県射水市） 中部工場（岐阜県安八郡） 中部エコペット工場（岐阜県安八郡） 近畿亀岡工場（京都府亀岡市） 関西工場（兵庫県小野市） 笠岡工場（岡山県笠岡市） 福山工場（広島県福山市） 神辺工場（広島県福山市） エフピコダックス（株）高知工場（高知県南国市） 九州工場（佐賀県神埼郡） 南郷工場（宮崎県日南市） 鹿児島工場（鹿児島県鹿児島市）	関東リサイクル工場（茨城県結城郡） 関東PETリサイクル工場（茨城県結城郡） 中部リサイクル工場（岐阜県安八郡） 中部PETリサイクル工場（岐阜県安八郡） 福山リサイクル工場（広島県福山市） 北海道選別センター（北海道石狩市） 山形選別センター（山形県寒河江市） 茨城選別センター（茨城県坂東市） 松本選別センター（長野県松本市） 東海選別センター（静岡県駿東郡） 岐阜選別センター（岐阜県安八郡） 金沢選別センター（石川県金沢市） 西宮選別センター（兵庫県西宮市） 関西選別センター（兵庫県小野市） 福山選別センター（広島県福山市） 九州選別センター（佐賀県神埼市） 西日本ペットボトルリサイクル（株） （北九州市若松区）
支店	大阪支店（大阪市北区）	
営業所	札幌営業所（札幌市中央区） 仙台営業所（仙台市青葉区） 新潟サテライトオフィス（新潟市中央区） 静岡営業所（静岡市駿河区） 名古屋営業所（名古屋市中村区） 北陸営業所（石川県金沢市） 広島営業所（広島市西区） 四国サテライトオフィス（香川県高松市） 福岡営業所（福岡市博多区）	
研究所	エフピコ総合研究所（広島県福山市）	

配送センター / ピッキングセンター

北海道配送センター（北海道石狩市） 東北配送センター（山形県寒河江市） 関東ハブセンター（茨城県結城郡） 八王子配送センター（東京都八王子市） 中部ハブセンター（岐阜県安八郡） 東海配送センター（静岡県駿東郡） 関西ハブセンター（兵庫県小野市）	福山ハブセンター（広島県福山市） 九州配送センター（佐賀県神埼郡） 北海道ピッキングセンター（北海道石狩市） 東北ピッキングセンター（宮城県黒川郡） 関東ピッキングセンター（茨城県結城郡） 茨城ピッキングセンター（茨城県結城郡） 八王子ピッキングセンター（東京都八王子市） 新潟ピッキングセンター（新潟県長岡市） 中部ピッキングセンター（岐阜県安八郡） 関西ピッキングセンター（神戸市北区） 福山ピッキングセンター（広島県福山市） 九州ピッキングセンター（佐賀県神埼郡）
--	--



人材データサマリー

エフピコ®の社会性に関するデータを紹介します。



従業員の構成 (2025年3月末現在)		男	女	合計
従業員数	(人)	651	337	988
外国人従業員数	(人)	1	5	6
平均年齢	(人)	45.2	36	42.1
30歳未満		108	125	233
30～39歳		120	85	205
40～49歳		165	102	267
50～59歳		178	19	197
60歳以上		80	6	86
平均勤続年数	(年)	18.5	12.4	16.5
連結従業員数	(人)	3,905	1,345	5,250

離職者数	早期	自己	会社	転籍	その他	合計	
2024年度	(人)	0	28	1	1	0	30

新卒入社者の定着状況		男	女	合計
2022年4月新卒入社者数	(人)	18	18	36
2025年4月在籍者	(人)	15	15	30

	女 (人)	男 (人)	女性比率 (%)
管理職に占める女性比率	67	395	14.5

障がい者雇用		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
実人数	(人)	362	365	365	393	401
障がい者雇用率	(%)	12.7	12.6	12.5	12.6	12.6

ワーク・ライフ・バランス	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
有給休暇取得率 (％)	49.3	56.1	57.6	63.6	58.6
一人あたり月平均残業時間 (時間/月)	8.0	7.8	7.7	7.5	8.9
産前産後休業取得者数 (人)	12	15	14	18	19
育児休業取得者数 (人)	15	15	20	20	21
女性	14	13	18	15	19
男性	1	2	2	5	6
女性取得率 (％)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
男性取得率 (％)	5.0	9.1	9.5	21.7	27.3
育児休業復帰率 (％)	96.0	95.2	100.0	95.2	100.0
男性育児休業等取得率※ (％)	-	-	-	82.6	69.2

※エフピコ独自の休暇制度（育児を目的とした連続5日間の休暇）と育児休業を合わせた取得率

財務サマリー（連結）

エフピコグループの業績に関するデータを紹介します。

回次		第59期	第60期	第61期	第62期	第63期
決算年月		2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月
売上高	(百万円)	187,509	195,700	211,285	222,100	235,628
経常利益	(百万円)	19,381	16,703	17,328	16,780	18,451
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	12,211	11,206	11,529	11,724	12,486
包括利益	(百万円)	13,021	11,118	11,558	12,485	12,812
純資産額	(百万円)	124,980	132,455	140,171	145,844	154,114
総資産額	(百万円)	247,234	262,695	298,623	298,580	292,226
1株当たり純資産額	(円)	1,520.06	1,610.11	1,703.56	1,795.71	1,897.68
1株当たり当期純利益	(円)	147.80	136.96	140.87	143.50	154.46
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	50.3	50.2	46.7	48.6	52.5
自己資本当期純利益率	(%)	10.0	8.8	8.5	8.2	8.4
株価収益率	(倍)	30.5	21.3	23.3	19.2	18.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	31,814	23,148	20,071	29,176	27,919
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△19,131	△22,866	△34,306	△10,711	△14,929
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△15,086	1,578	16,745	△17,013	△18,070
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	17,884	19,745	22,255	23,707	19,020

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第60期の期首から適用しており第59期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。
※ 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
※ 当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、59期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産を算定しております。

環境データサマリー

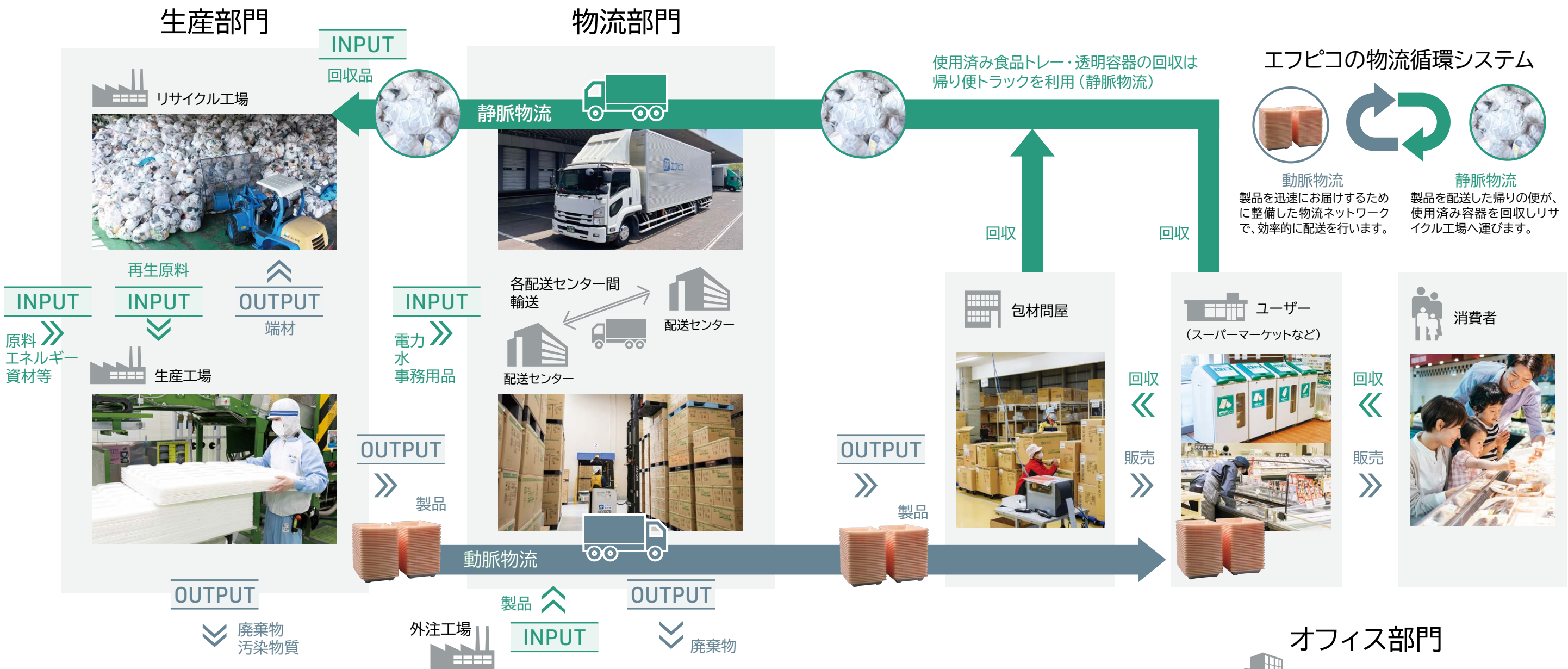
エフピコは、自然環境への負荷を可能な限り低減・抑制するために、自らの企業活動が生み出した環境への影響を、正確に把握することに努めています。以下はCO₂排出量及び部門ごとの物質収支・エネルギー使用量です。

CO₂排出量

	2025年3月期 (t-CO ₂)
Scope 1	7,139
Scope 2	167,911
Scope 3	938,673

※Scope2はマーケットベースで記載・Scope3のみエフピコ単体

詳細はこちら



製造部門2024年度データ

INPUT	エネルギー	電力	400,425,103 kwh	OUTPUT	製品	製品生産重量	213,900 t
		化石エネルギー	86,422,874 MJ			出荷トラック台数	168,065 台
	水資源	上水	600,047 m ³		廃棄物		25,447 t
		地下水	223,120 m ³			煤塵	31 Kg
		工業用水	89,348 m ³		環境汚染物質	NOx	3,310 Kg
	原料 (樹脂類他)		225,917 t			SOx	896 Kg
		段ボール	40,731 t			BOD	2,142 Kg
	副資材	包装ポリ	3,575 t			COD	1,947 Kg
		潤滑油	7,972 L			SS	189 Kg
		シンナー	63,323 L				
その他	紙		3,170,500 枚				

物流部門2024年度データ

INPUT		
エネルギー	電力	18,926,094 kwh
	化石エネルギー	4,157,888 MJ
水資源	上水	19,286 m³
その他	紙	10,457,154 枚
OUTPUT		
廃棄物		499 t

オフィス部門2024年度データ

INPUT		
エネルギー	電力	3,916,650 kwh
水資源	上水	6,098 m³
その他	紙	9,911,030 枚
OUTPUT		
廃棄物		51 t

イニシアチブへの参画・社会的な評価等

環境関連参画団体



エコファースト企業制度
認定

エフピコグループは2011年に環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を交わし、環境への先進的な取り組みを続けてきました。2024年6月にこの約束を更新し、より一層の環境対策に向けた姿勢を表明しています。



エフピコは2019年に設立された「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (CLOMA)」に設立当初から幹事会社として参加しています。技術部会の副部長として、リサイクル技術や新素材の開発などに取り組んでいます。



循環経済パートナーシップ (J4CE) は、循環経済への理解促進と取り組み強化を目的に、環境省・経産省・経団連が2021年に設立した官民連携の枠組みです。エフピコ方式リサイクルは、このJ4CE がまとめた特に注目度の高い29件の「注目事例集」に掲載されています。



エフピコは、2030年までに日本の陸域・海域の30%を保全する「30by30目標」に賛同し、環境省が推進する「30by30アライアンス」に参加しています。「エフピコ環境基金」を通じて川や海、里山、森林の保全・研究・環境教育を支援しています。

ESG 指数



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

世界主要企業約3,000社を対象とするESG評価に基づく
株式指数シリーズ「FTSE4Good Index」に、エフピコも選定されています。

2024 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)



S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

女性活躍推進法に基づき開示された女性雇用に関するデータをもとに、多面的な視点から性別多様性スコアを算出し、各業種においてスコアの高い企業を選定して構築された指数です。米国のMSCI社が開発したESG指数の一つであり、「FTSE Blossom Japan Index」と同様に、 GPIF (年金積立金管理運用独立行政法人) が採用するESG指数です。

GPIF採用指数の一つで、環境情報の開示状況と炭素効率性の水準に着目して設計されたインデックスです。

外部評価



エコマークアワード
2024 優秀賞

(財)日本環境協会が主催する表彰制度で、エフピコは2010年の金賞に続き優秀賞を受賞。「トレー toトレー」リサイクルは1991年にエコマーク認定を取得し、消費者参加型の活動として全国の店舗で展開。サーキュラーエコノミーの先駆けとして評価されています。



CDP気候変動への情報開示
2024年度評価「A」

CDPは、気候変動や水資源、森林保全に関する企業の取り組みを評価・スコア化する国際的な非営利団体です。エフピコは気候変動への先進的な取り組みと高い情報開示が評価され、2024年も2年連続でCDP気候変動分野の「Aリスト企業」に選定されました。今後も気候変動対策を推進し、持続可能な循環型社会の実現を目指していきます。



サプライヤー・エンゲージメント評価
2024年度評価
「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」



2024年12月、ダイバーシティとインクルージョンに取り組む企業を評価する日本最大のアワード「D&I AWARD」で2年連続最上位の「ベストワークプレイス」に認定されました。長年にわたる障がいのある人材の雇用推進や、仕事と育児の両立支援の取り組みなどの強化が評価されました。



えるぼし (2段階目)

女性活躍推進法に基づく「女性活躍推進企業」として2023年に「えるぼし (2段階目)」に認定されました。「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」の3つの評価基準を満たし、「一般事業主行動計画」を厚生労働省の女性の活躍推進企業データベースに掲載しています。



「健康経営優良法人 (大規模法人部門)」は従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、健康の保持・増進につながる取り組みを戦略的に実践する企業を表彰するものです。エフピコは2022年から4年連続で認定されています。



従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行う企業として「スポーツエルカンパニー2025」にスポーツ庁から認定されました。2018年度以来連続して認定されており、シルバー認定を受けています。

エフピコのあゆみ

- 1962

福山パール紙工株式会社設立。広島県福山市古宮町（現在の霞町）に福山本社を設置し、PSP成形加工を開始
- 1972

福山配送センター（広島県福山市）を開設、以後各地に配送センターを設置
- 1976

自社製品の展示会「パールフェア（現エフピコフェア）」第1回目を開催
- 1979

配送体制強化のためエフピコ物流（株）を設立
- 1981

食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始
- 1983

東京支店（東京都練馬区）を開設
- 1985

大阪支店（大阪府大阪市）を開設
関東工場（茨城県八千代町）稼働、以後各地に生産工場を設置
- 1989

CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める
広島証券取引所に株式上場
- 1991

大阪証券取引所市場第二部に株式上場
- 1997

代表取締役社長（当時）小松安弘が『藍綬褒章』を受章
- 2000

特例子会社（株）ダックス四国本社工場（高知県南国市）を竣工、以後各地に特例子会社の事業所を設置
東京証券取引所市場第二部に株式上場
- 2001

東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に
- 2003

東日本ハブセンター（茨城県八千代町）完工
- 2005

東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場
- 2006

就労継続支援A型子会社を目的とする広島愛パック（株）（現エフピコ愛パック（株））設立、以後各地に愛パックの事業所を設置
- 2007

福山本社建て替え
- 2012

PET容器では世界で初となるPET2軸延伸製品を上市
- 2013

代表取締役会長（当時）小松安弘が『旭日重光章』を受章
- 2014

福山クロストックセンター稼働（広島県福山市）
エフピコ総合研究所・人材開発研修センター竣工（広島県福山市）
- 2015

経済産業省より「ダイバーシティ経営企業100選」に選出
経済産業省と東京証券取引所が選ぶ「攻めのIT銘柄」に選定
経済産業省主催「第6回ものづくり日本大賞（製品・技術開発部門）」優秀賞受賞



福山本社



エフピコ総合研究所・人材開発研修センター

- 2016

代表取締役会長（当時）小松安弘が、「福山市名誉市民」に推戴される
- 2017

創業者小松安弘永眠
- 2018

エフピコアルライト（株）本社工場竣工
広島営業所新社屋竣工
平成30年度「スポーツエールカンパニー」認定（スポーツ庁）（以降7年連続取得中）
- 2019

第一回ジャパンタイムズESGアワード
- 2020

福山市総合体育館のネーミングライツを取得した「エフピコアリーナふくやま」オープン
- 2021

中部ハブセンター竣工
- 2022

東京証券取引所プライム市場へ移行（証券コード：7947）
マレーシアのプラスチック製食品容器メーカーLee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.の株式を取得
健康優良法人（大規模法人部門）取得（以降4年連続取得中）
- 2023

関西工場・関西ハブセンター竣工（兵庫県小野市）
えるぼし（2段階目）認定取得
- 2024

関西選別センター竣工
- 2025

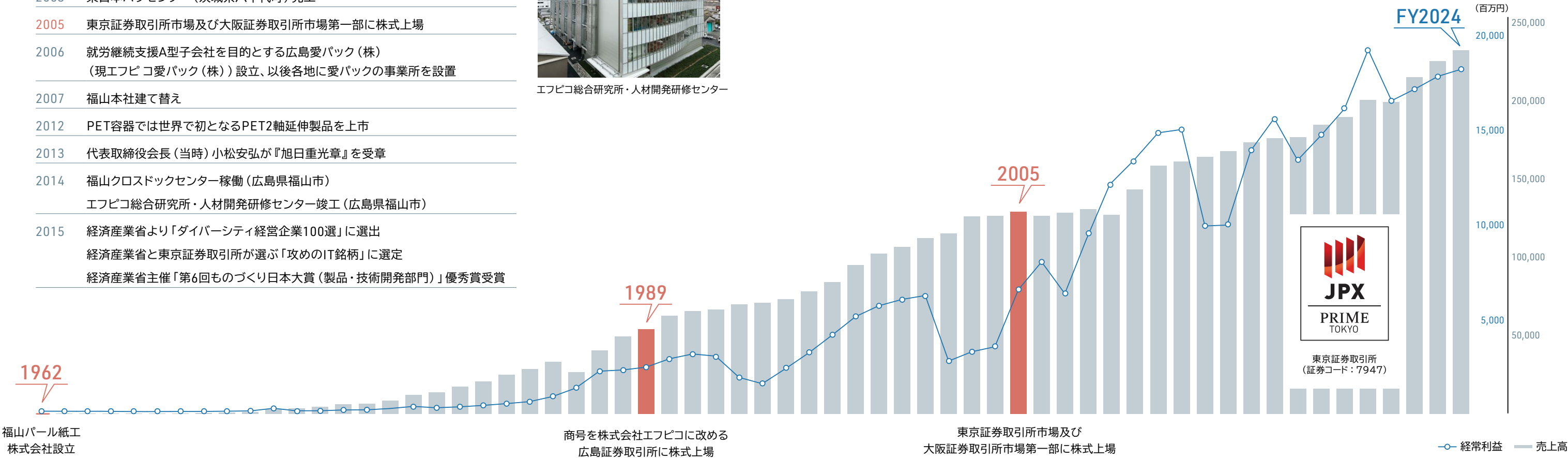
「NIKKEI 社歌コンテスト2025」大賞受賞



エフピコアリーナふくやま



関西工場・関西ハブセンター



エフピコのあゆみ

環境関連事業/成果など

- 1980 トレー容器のごみ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する
- 1990 エフピコ方式リサイクルスタート
- 1991 「エコトレー」が業界初のエコマーク認定
- 1993 (財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて『クリーン・ジャパン・センター会長賞』受賞
- 2007 「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて『製品部門最優秀賞』受賞
- 2011 「エコマークアワード2010」にて『金賞』受賞
環境大臣より「エコファースト企業」として認定を受ける
再生PET容器「エコAPET」が(財)日本環境協会よりエコマーク商品認定を取得
- 2015 地球温暖化防止活動環境大臣表彰(対策活動実践・普及部門)受賞
- 2016 ペットボトルリサイクルからエコAPET製造までの一貫生産拠点
「中部エコペット工場」稼働
- 2017 関東エコペット工場稼働
- 2018 「G20イノベーション展」に出展
- 2019 「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」に幹事として参画
- 2020 「エフピコ環境基金」設立
- 2021 「カーボンオフセット宣言」発表
- 2022 関東八千代エリアに太陽光発電導入
関東リサイクル工場で100%再エネ化導入
エフピコ中長期目標FPEA(エフピコエコアクション)2.0リリース
TCFDの提言へ賛同
中部エリアに太陽光発電導入
- 2023 G7広島サミット 国際メディアセンター(IMC)広報展示で、
エフピコ方式リサイクル「トレー to トレー」を出展
東京商工会議所が主催する「eco検定アワード2023」で
エコユニット部門の奨励賞を受賞
- 2024 関西工場・関西ハブセンター屋根上太陽光発電による
再生可能エネルギー調達開始により、エコトレーのCO₂削減効果が37%に上昇
エコ・ファーストの約束を更新
関西選別センター稼働
エコマークアワード2024 優秀賞受賞



「特集：価値創造の源泉」のパートでお伝えしました通り、エフピコは『NIKKEI 社歌コンテスト2025』において、応募総数117社・団体でトップの大賞という栄誉に輝きました。エフピコグループ各社を代表して集まり、苦労を共にしてきた社歌コンテストプロジェクト実行委員会のメンバーにとって、大賞発表の瞬間は言葉にならないほどの喜びだったことでしょう。歓喜の笑顔の後はたくさんの涙があちこちであったそうです。

本レポートでは挑戦、協力、努力、克服、結束、成功というプロセスを重ねることで生まれた企業風土としての“エフピコらしさ”をテーマとして取り上げました。社歌コンテスト優勝はこのテーマを象徴できごとでした。

『エフピコレポート2025』を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。内容の継続的な改善のためにも、アンケートにぜひともご協力くださいますようお願い申し上げます。



執行役員
サステナビリティ推進室
ジェネラルマネージャー
富樫 英治

こちらのQRコードまたは当レポートに添えてある用紙よりアンケートにご協力ください





私はあまり知られていませんが、
名前は、底にあります。

食品トレイ・容器のエフピコ。



福山本社 〒721-8607 広島県福山市曙町1-13-15

TEL (084) 953-1145

東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー 36F

TEL (03) 5320-0717

大阪支店 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F

TEL (06) 6441-2468

営業所 札幌、仙台、新潟、静岡、名古屋、北陸、広島、四国、福岡

ホームページ <https://www.fpco.jp/> eメール Env-FP@fpco-net.co.jp